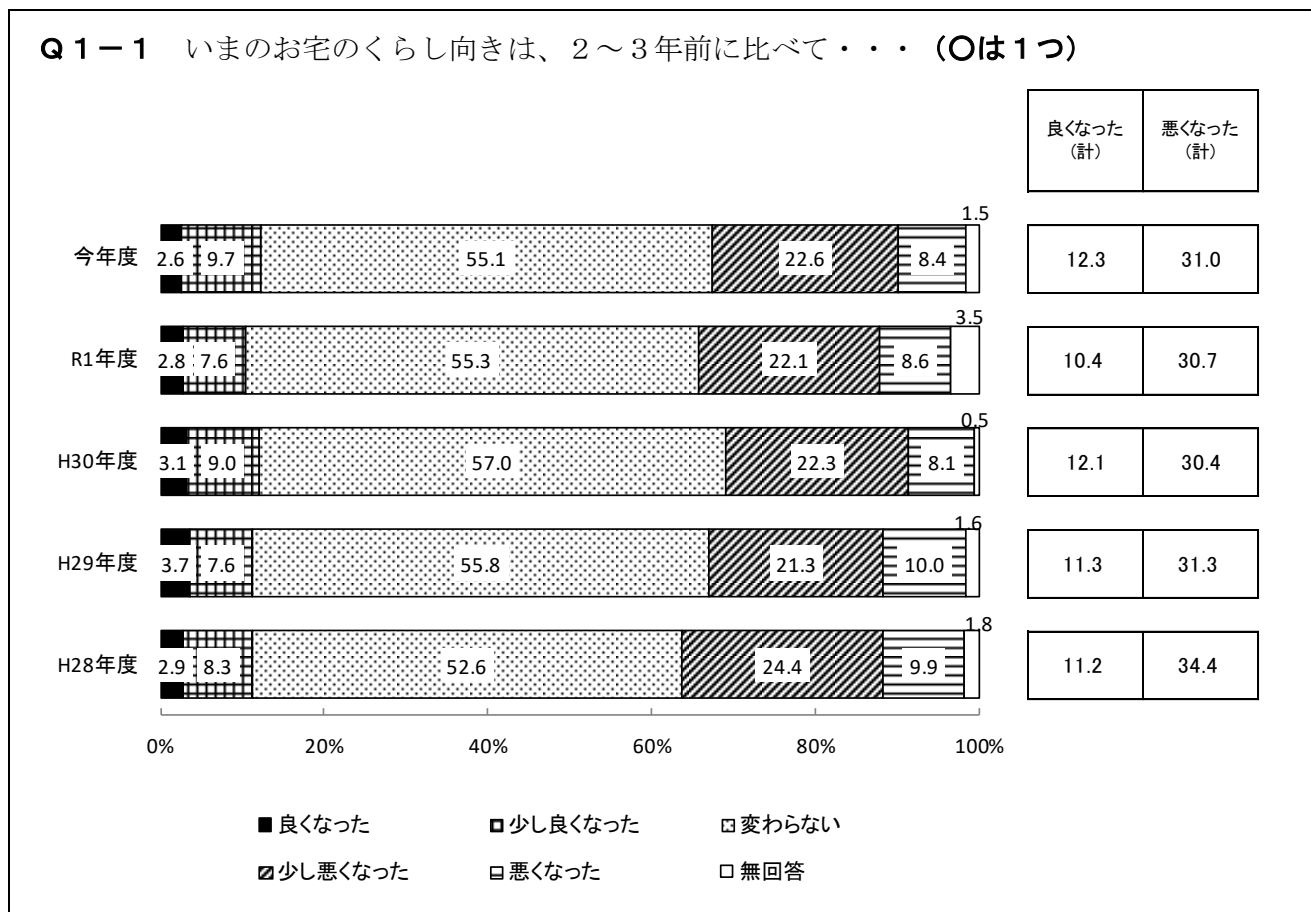


Ⅱ. 調査結果

1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化

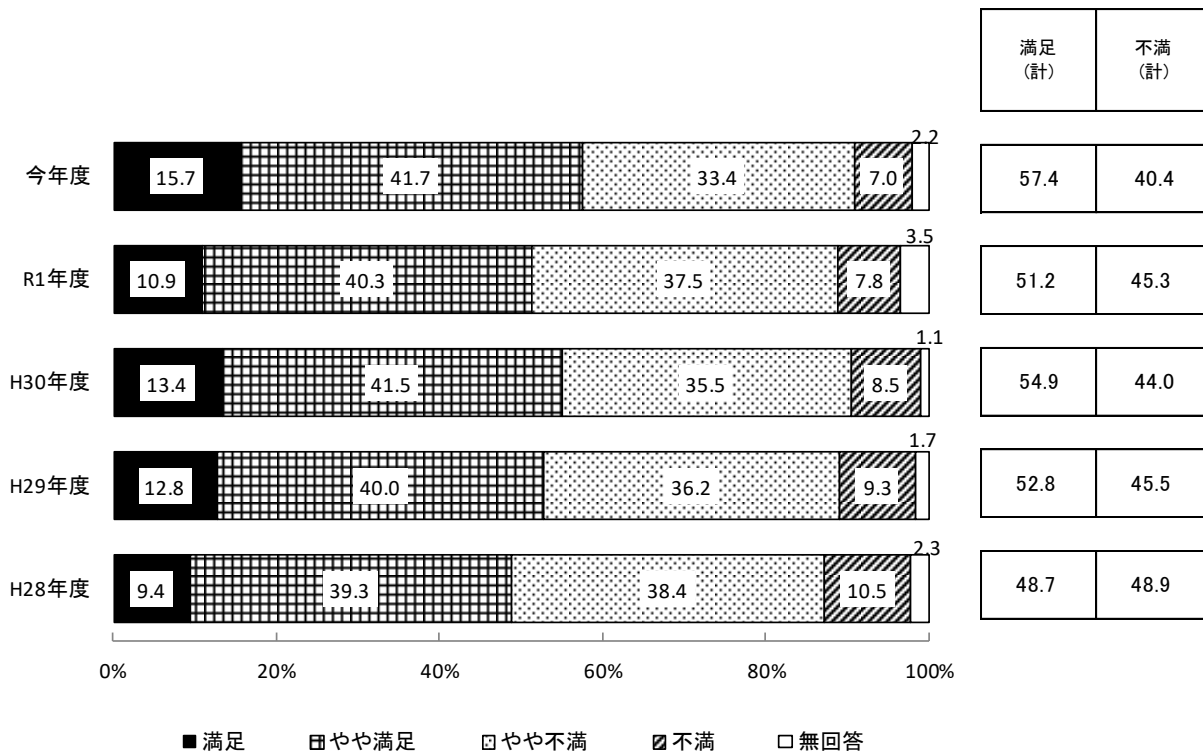


2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』が12.3%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』が31.0%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『良くなった(計)』は1割強、『悪くなった(計)』は3割強で推移しており、大きな変化はみられない。

1-2. 暮らしの満足度

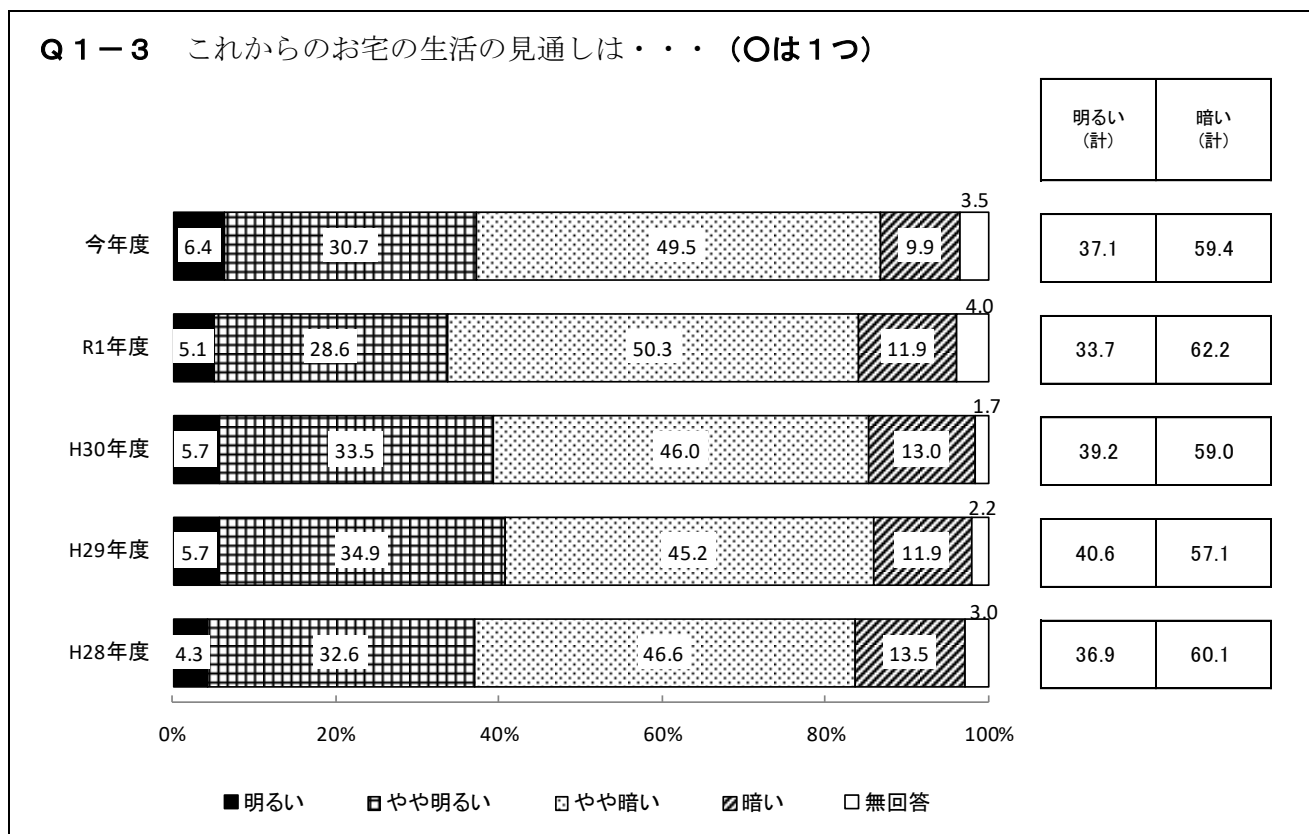
Q 1-2 いまのお宅の暮らし向きにあなたは・・・（〇は1つ）



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』が 57.4%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満 (計)』が 40.4%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『満足 (計)』は5割程度、『不満 (計)』は4割程度で推移している。

1-3. 今後の生活の見通し



今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』が37.1%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』が59.4%となっている。

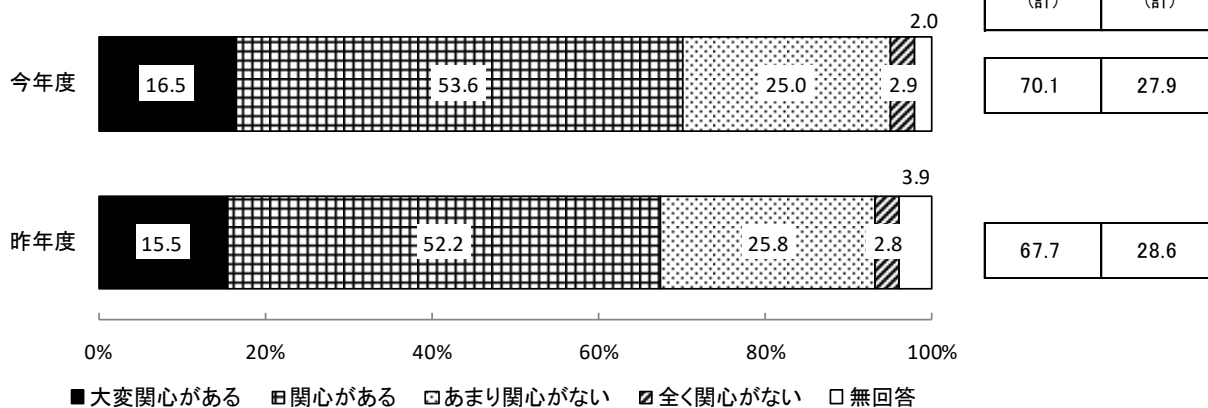
直近5年間の回答状況を見ると、『明るい (計)』は4割弱、『暗い (計)』は6割弱で推移している。

2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(1) 国の政治・経済

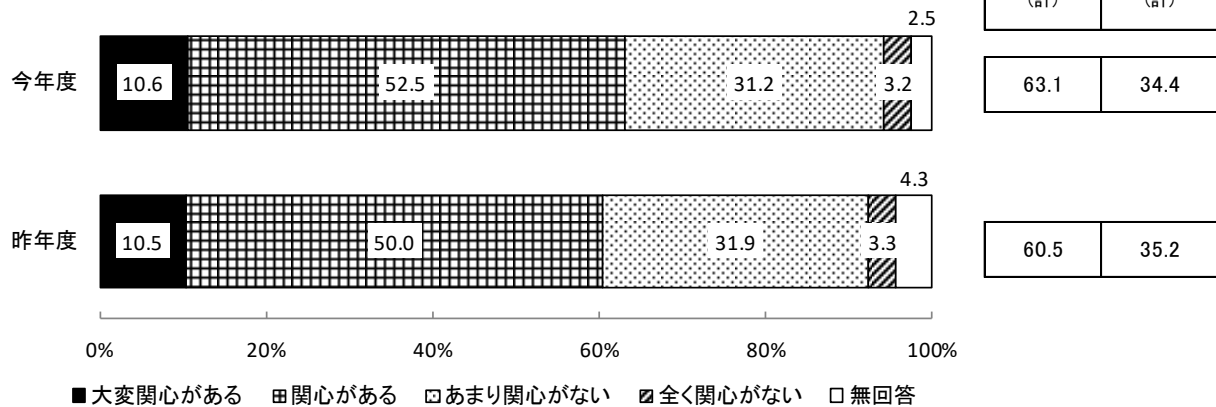


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 70.1%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 27.9%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 2.4 ポイント上昇、『関心がない (計)』は 0.7 ポイント低下している。

2-2. 県の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(2) 県の政治・経済

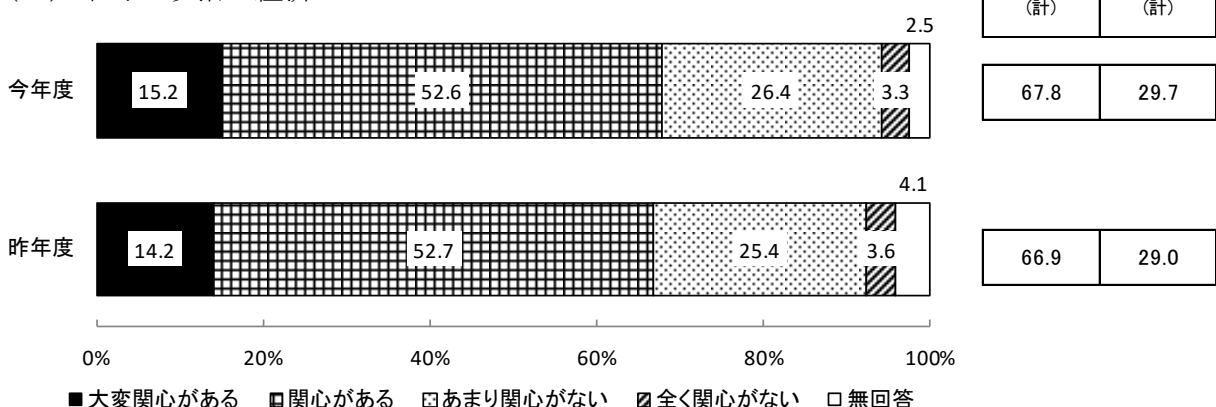


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が63.1%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が34.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は2.6ポイント上昇、『関心がない(計)』は0.8ポイント低下している。

2-3. 市町の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(3) 市町の政治・経済

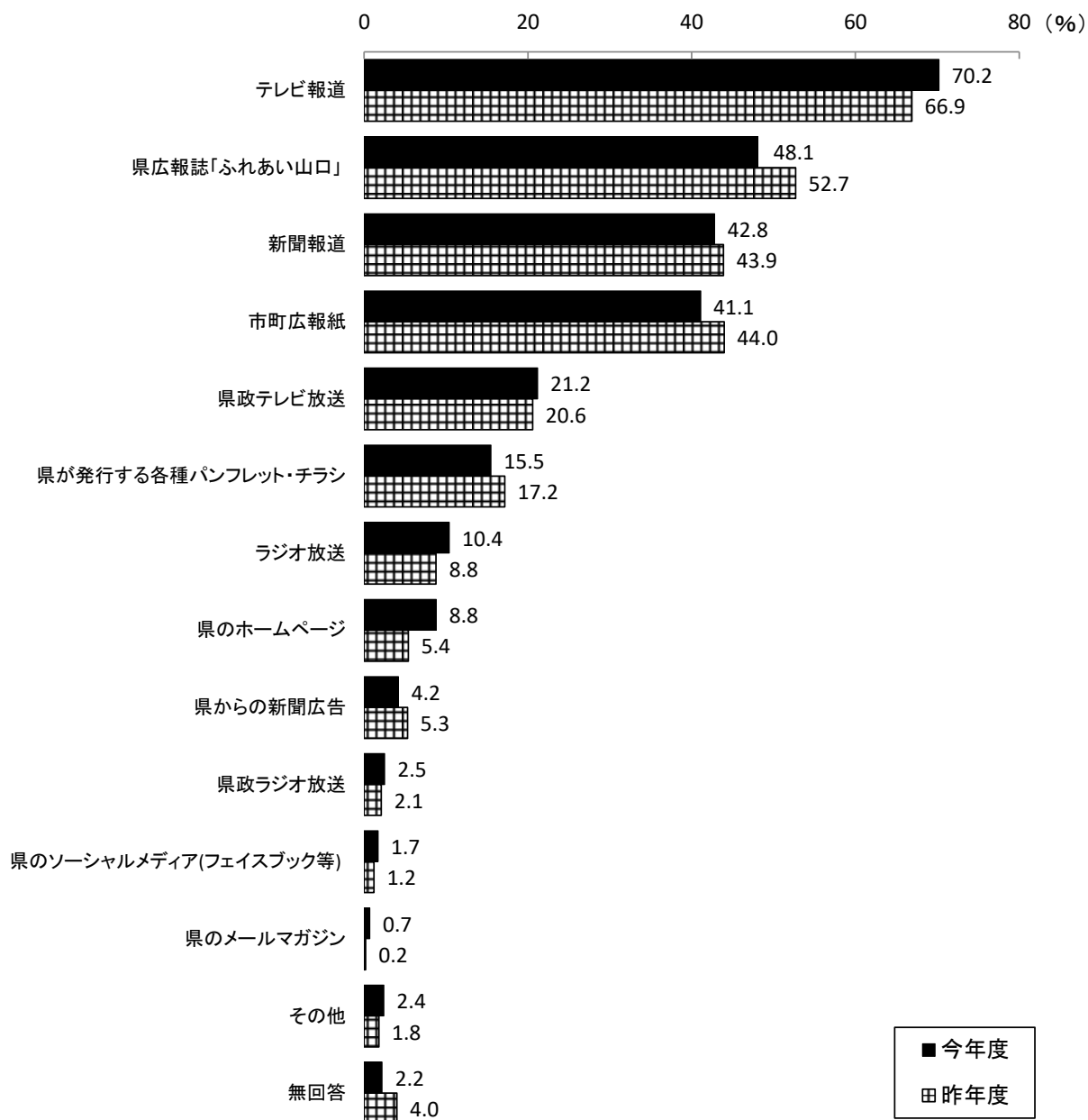


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が67.8%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が29.7%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は0.9ポイント、『関心がない(計)』は0.7ポイントとそれぞれ上昇している。

3. 県が行う広報の認知等

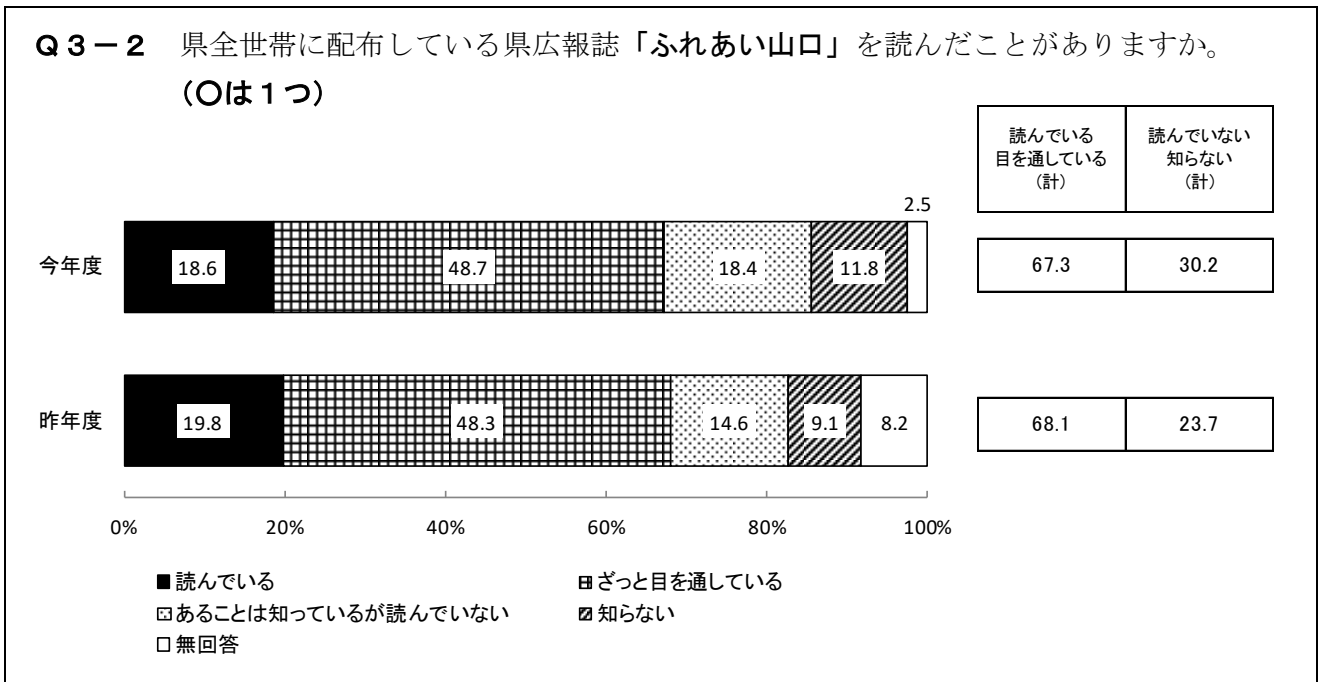
3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が70.2%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が48.1%、「新聞報道」が42.8%、「市町広報紙」が41.1%、「県政テレビ放送」が21.2%、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」が15.5%などの順となっている。昨年度と比較すると、「県のホームページ」は3.4ポイント上昇している。また、「県広報誌『ふれあい山口』」は4.6ポイント低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している(計)』は67.3%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない(計)』は30.2%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している(計)』は0.8ポイント低下、『読んでいない・知らない(計)』は6.5ポイント上昇している。

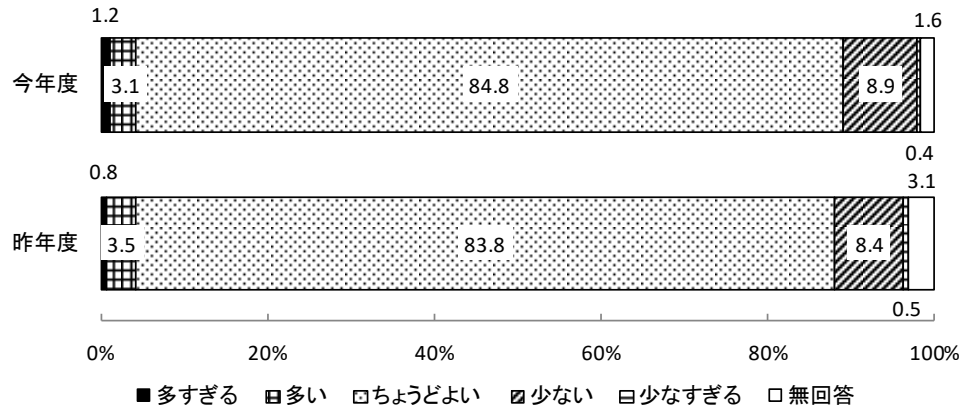
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=1,057)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

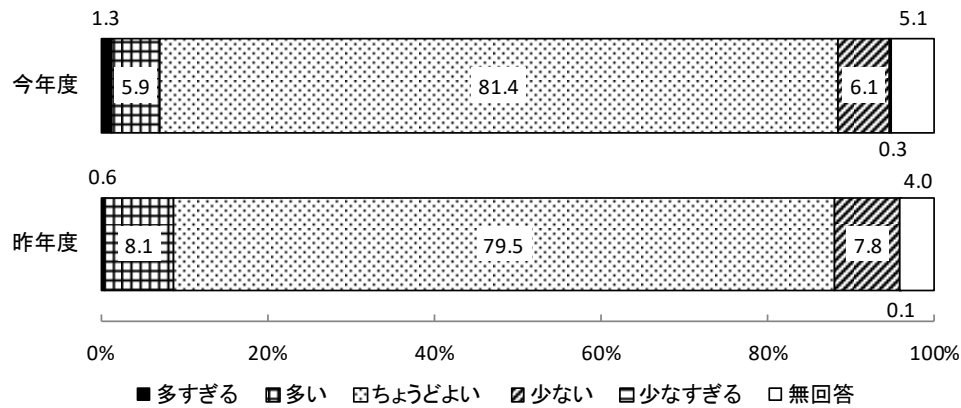
(〇はそれぞれ1つ)

(1) 発行回数 (年4回)



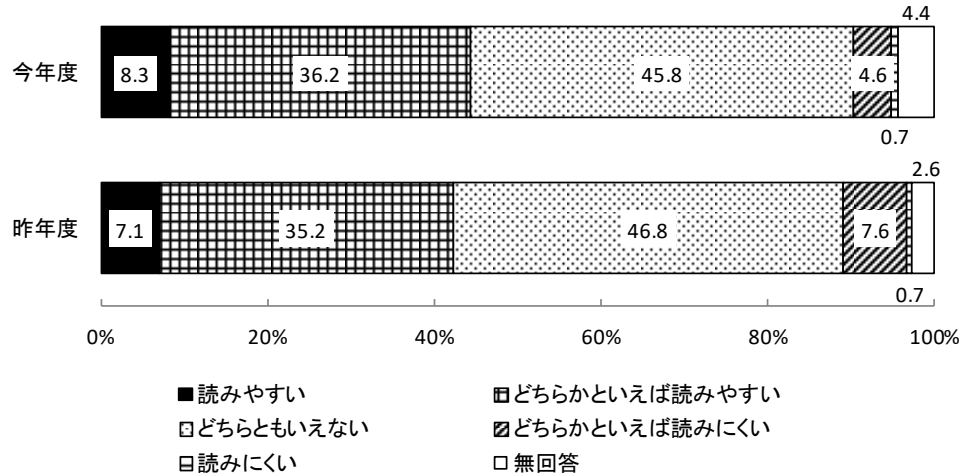
多い (計)	少ない (計)
4.3	9.3

(2) 各号の情報量 (年2回：12ページ 年2回：8ページ)



多い (計)	少ない (計)
7.2	6.4

(3) 誌面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
44.5	5.3

42.3	8.3
------	-----

Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が84.8%と最も多

く、情報量については「ちょうどよい」が81.4%と最も多くなっている。昨年度と比較すると、発行回数が「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない(計)』は0.4ポイント上昇、情報量が「多い」と「多すぎる」を合わせた『多い(計)』は1.5ポイント低下となっている。また、読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』が44.5%となっている。

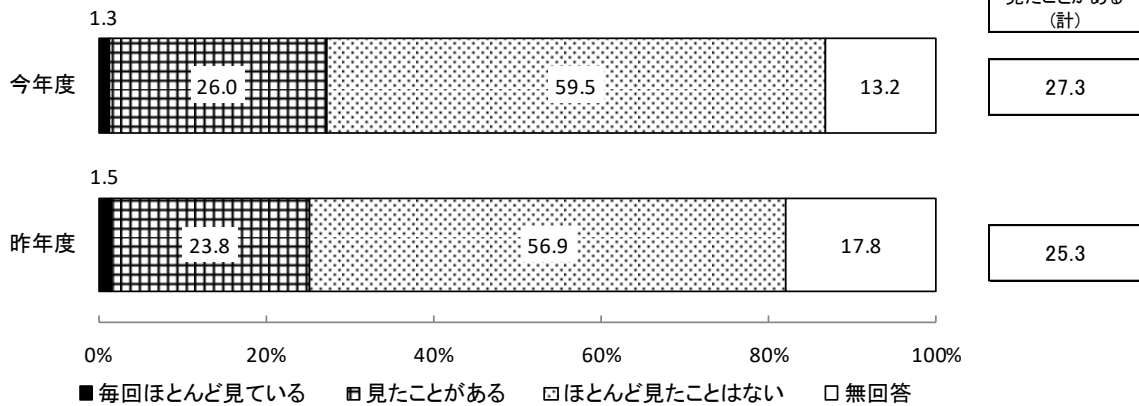
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

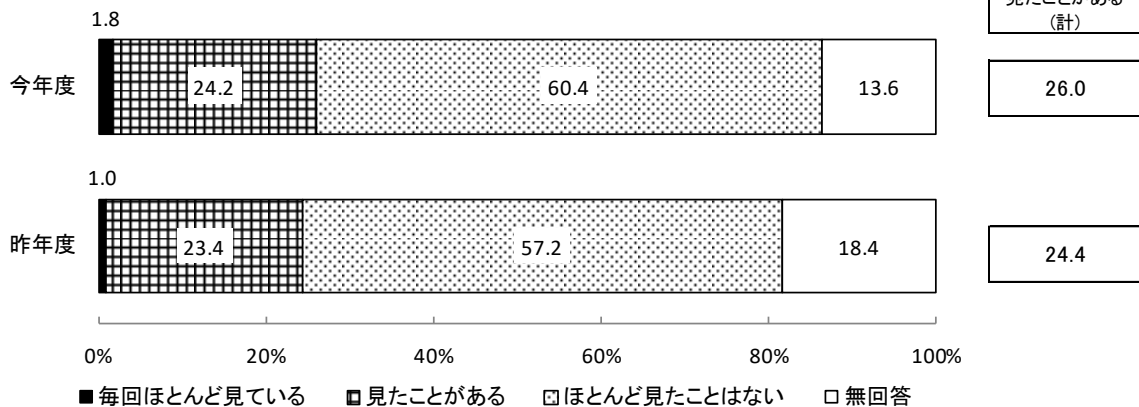
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。

(○はそれぞれ1つ)

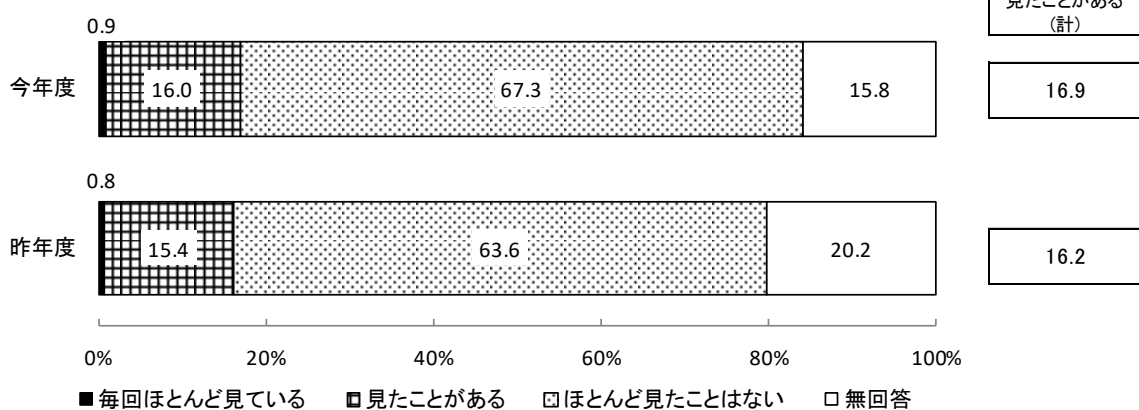
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）

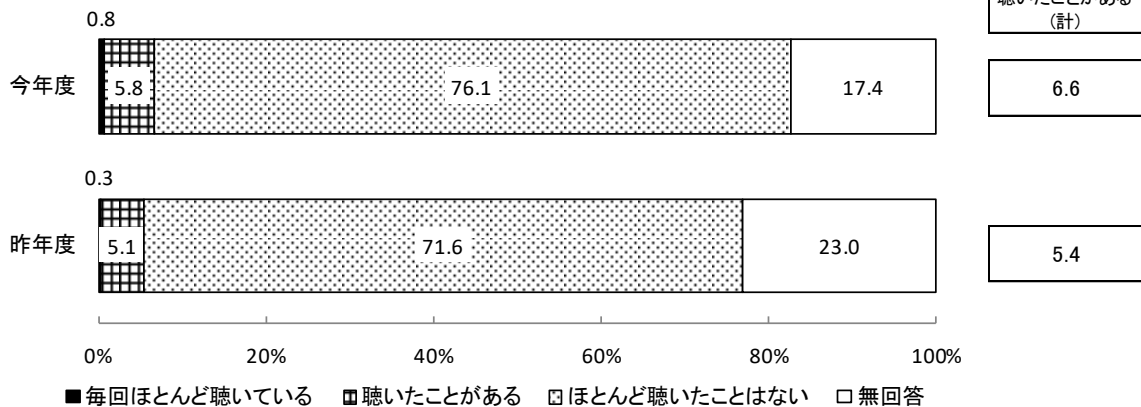


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）

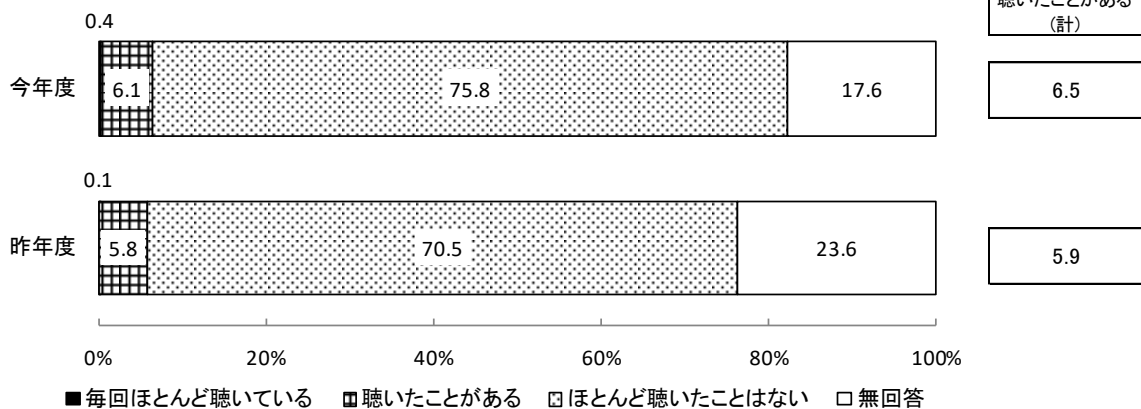


県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある（計）』が、「元気創出！やまぐち」は27.3%、「大好き！やまぐち」は26.0%、「イキイキ！山口」は16.9%となっており、すべての番組で上昇している。

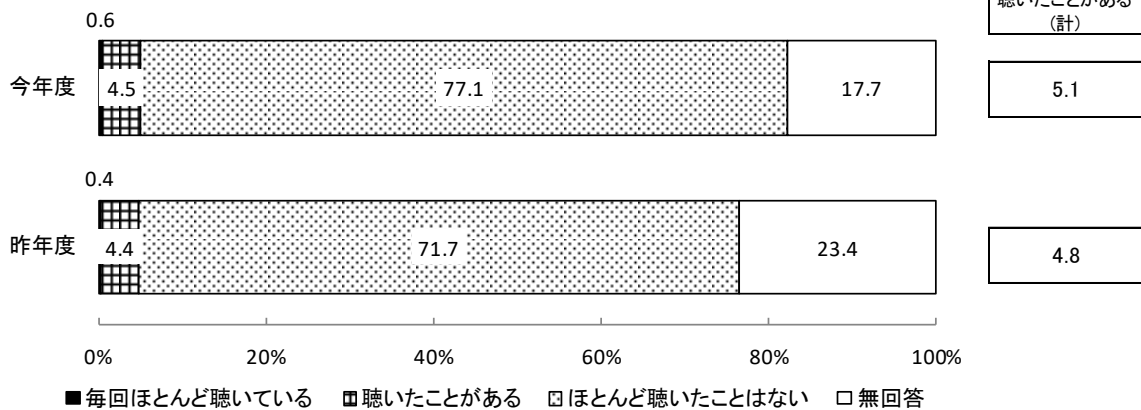
(エ) 「ワンポイント県政」 (KRY山口放送)



(オ) 「FM県民ダイアリー」 (エフエム山口)



(カ) 「情報BOXやまぐち」 (エフエム山口)

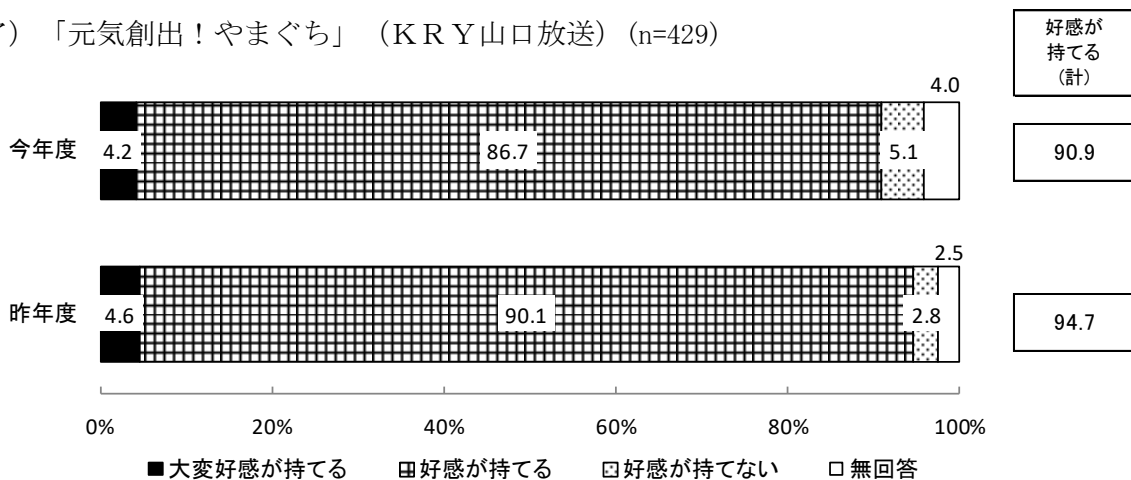


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』が、「ワンポイント県政」は6.6%、「FM県民ダイアリー」は6.5%、「情報BOXやまぐち」は5.1%となっており、すべての番組で上昇している。

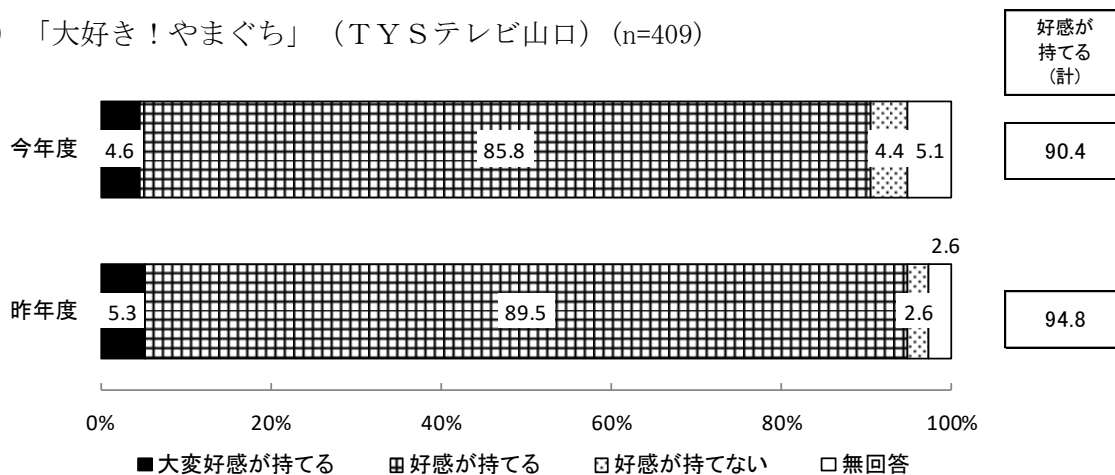
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（○はそれぞれ1つ）

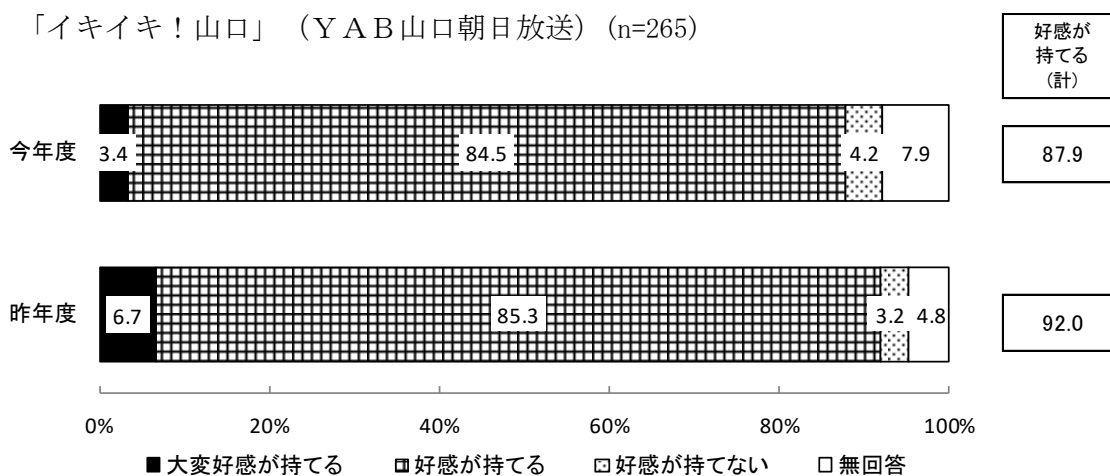
(ア) 「元気創出！やまぐち」（K R Y山口放送）（n=429）



(イ) 「大好き！やまぐち」（T Y Sテレビ山口）（n=409）

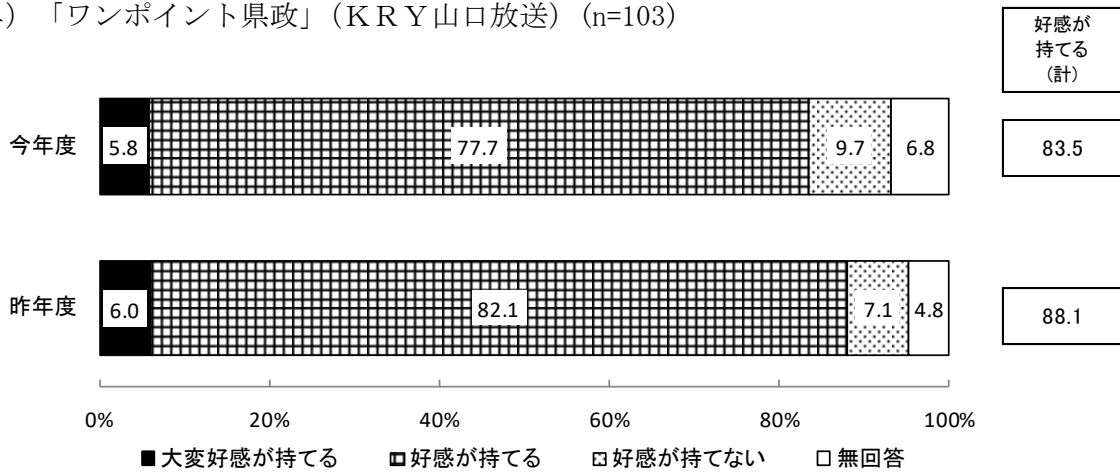


(ウ) 「イキイキ！山口」（Y A B山口朝日放送）（n=265）

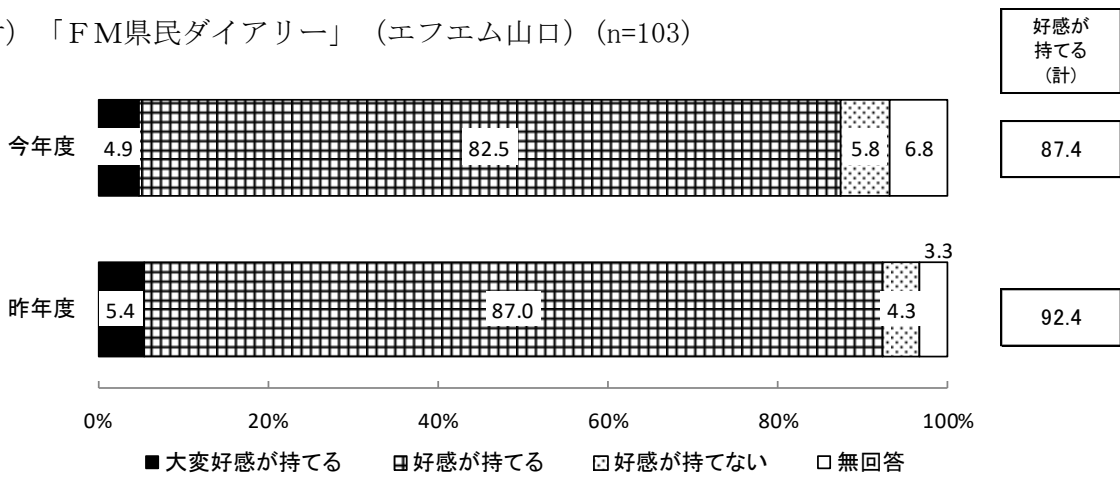


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる（計）』が9割前後となっている。

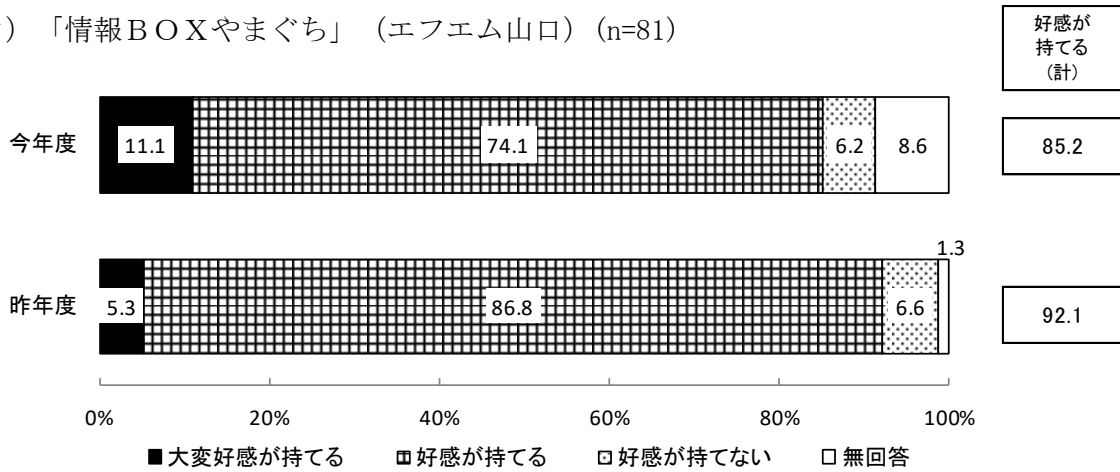
(エ) 「ワンポイント県政」(K R Y山口放送) (n=103)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=103)



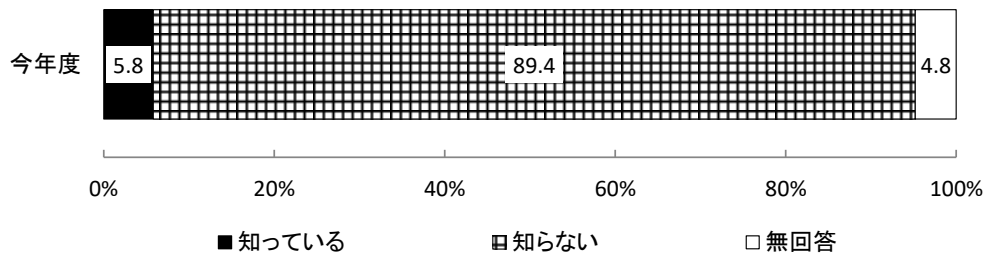
(カ) 「情報BOXやまぐち」(エフエム山口) (n=81)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が8割超となっている。

3-5. 県の広報展開の認知度

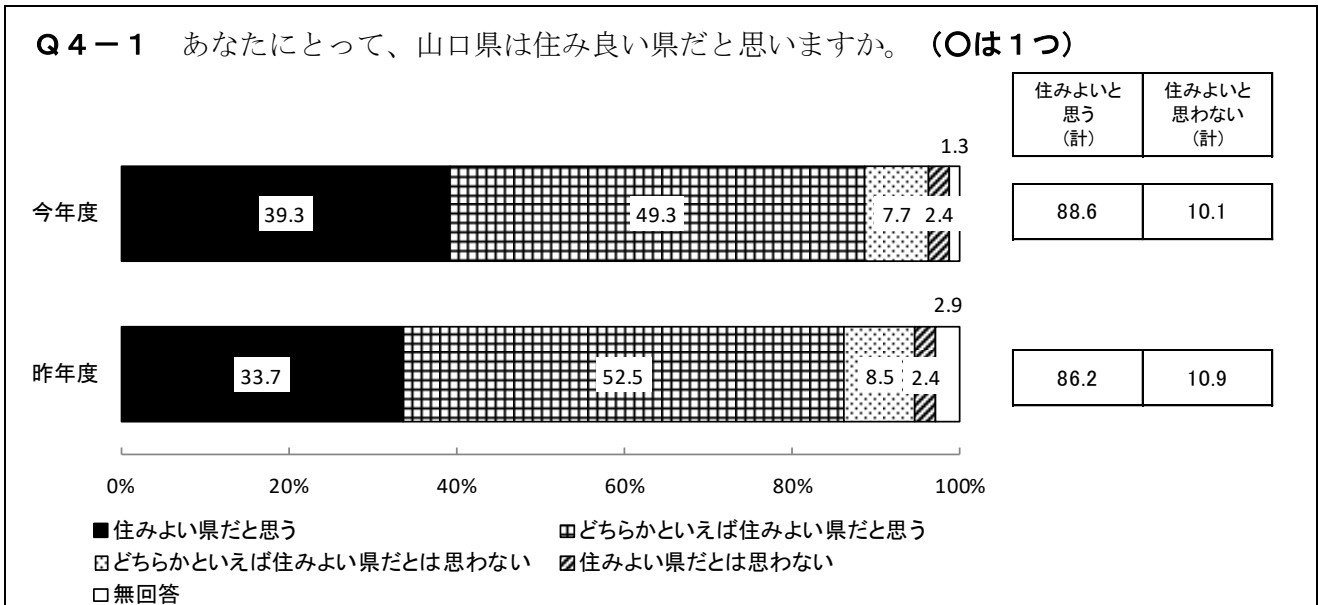
Q3-5 県では、本県の多彩な魅力や施策等の情報を、SNS等も活用し、ターゲットとなる方々に着実に届ける広報を展開しています。あなたは、このことをご存じですか。
(〇は1つ)



県の広報展開の認知度について、「知っている」が5.8%、「知らない」が89.4%と、知らない人の割合が約9割を占めている。

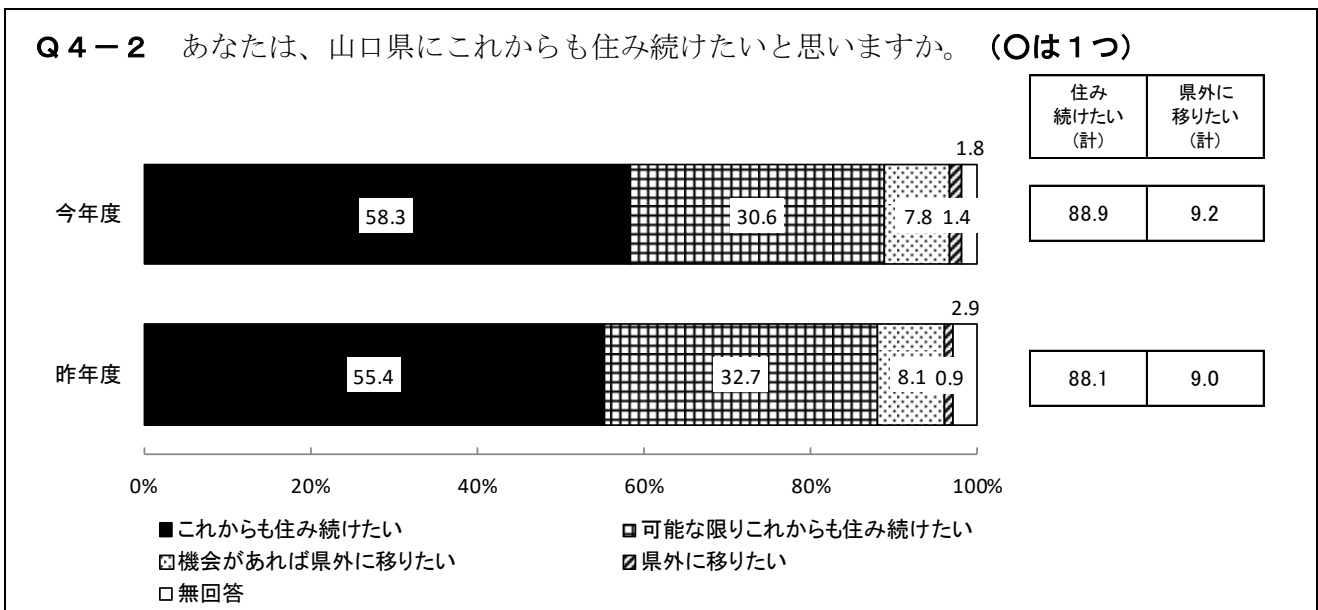
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 88.6%となっており、昨年度と比較すると、2.4 ポイント上昇している。

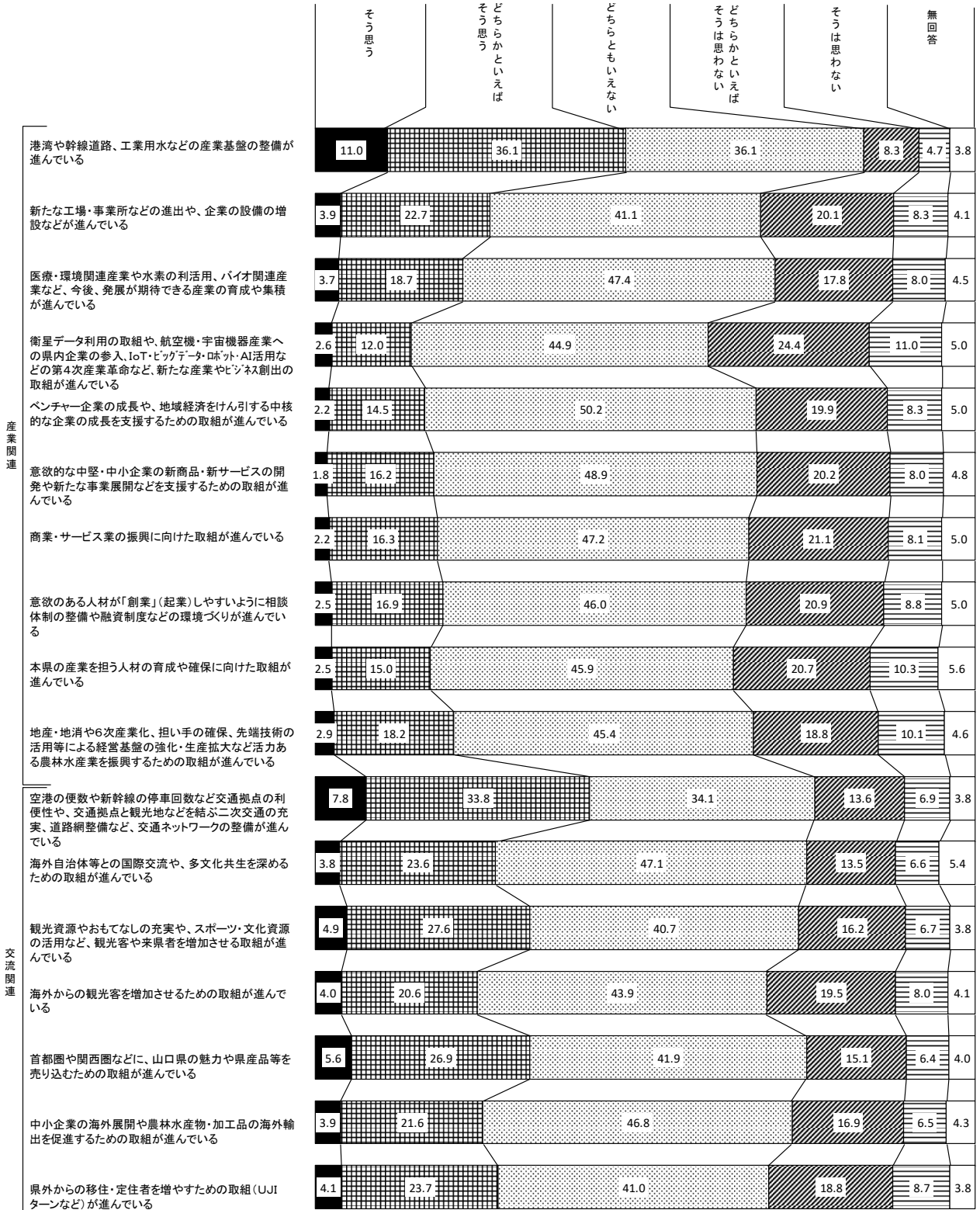
4-2. 今後の山口県への居住意向

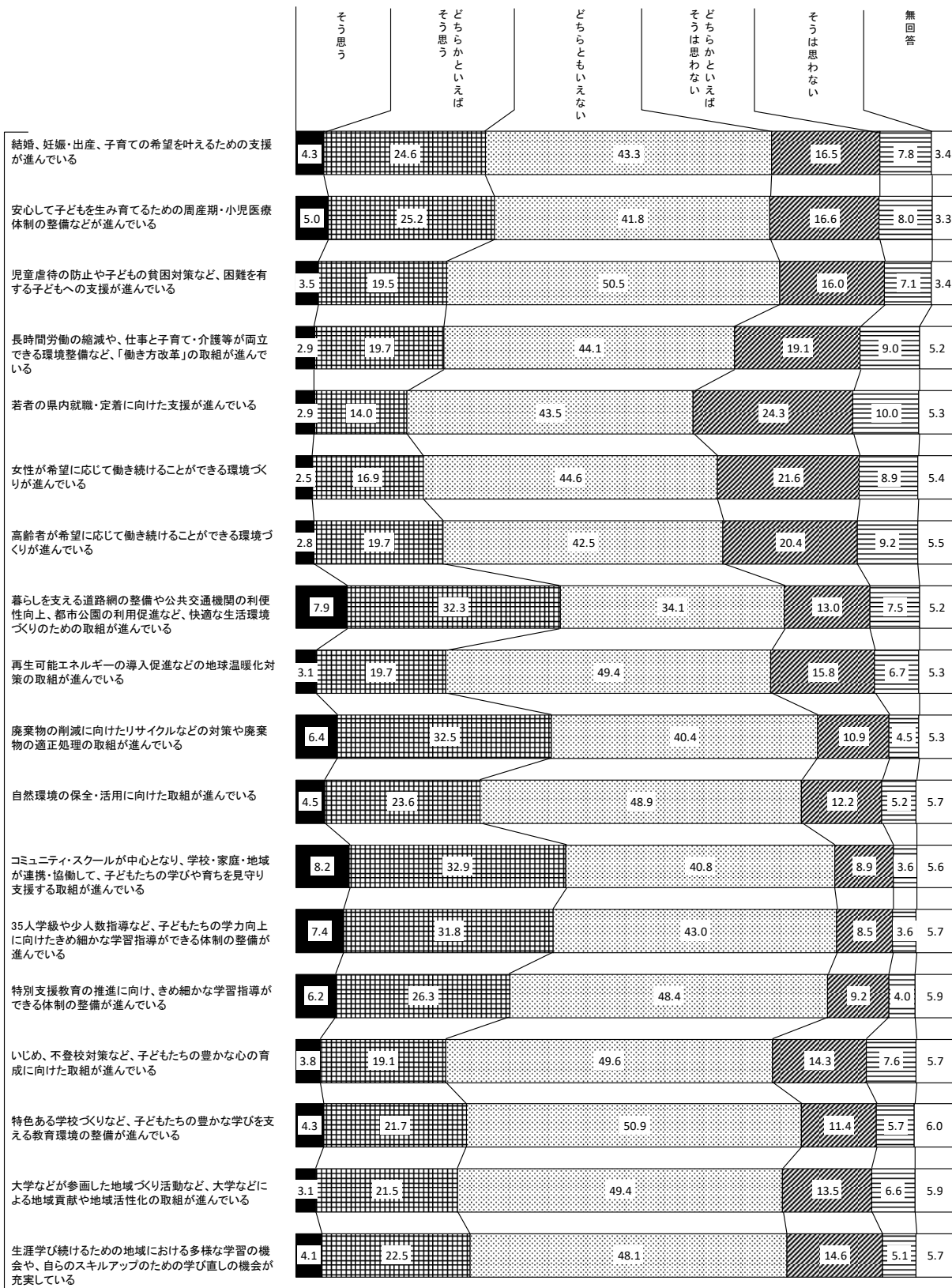


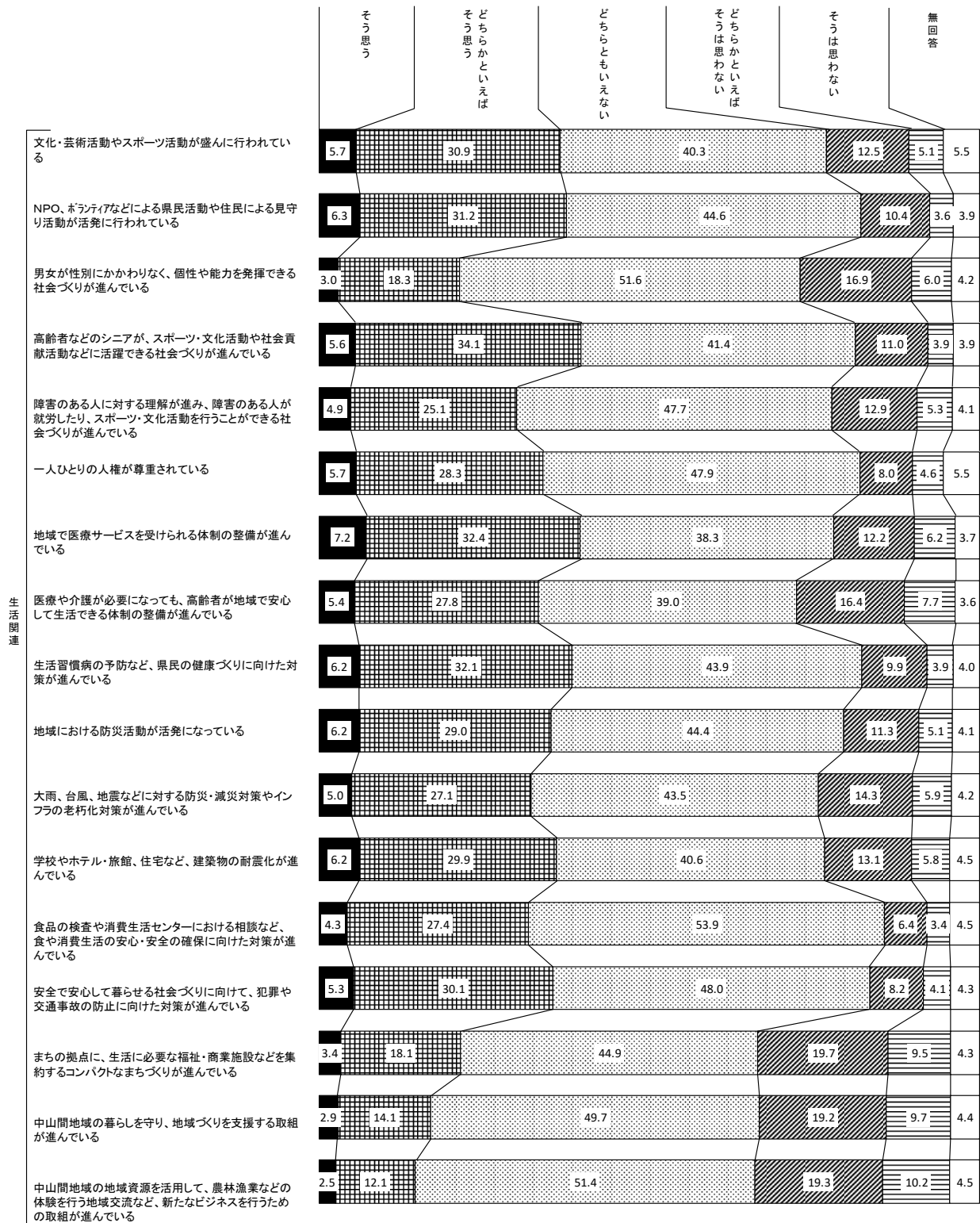
今後の山口県への居住意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 88.9%となっており、昨年度と比較すると、0.8 ポイント上昇している。

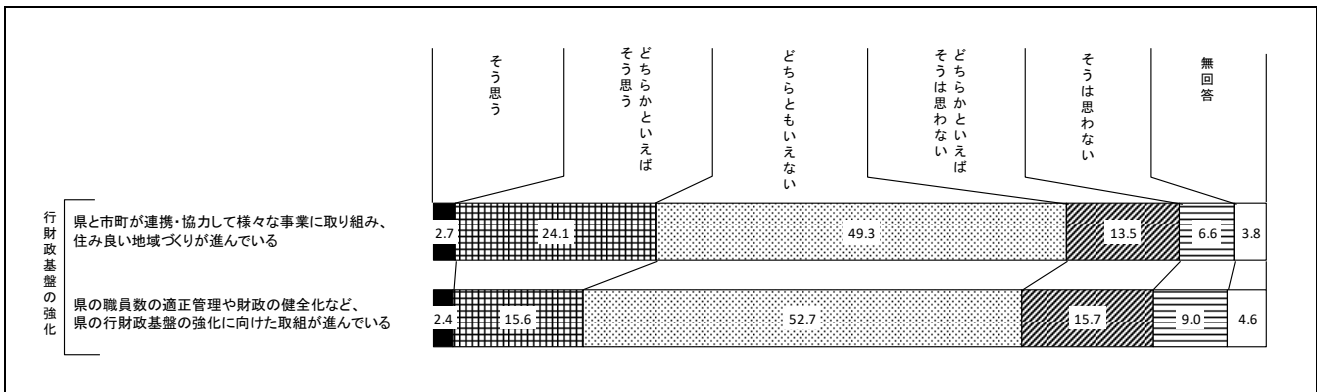
4-3. 県の実感

Q4-3 「やまぐち維新プラン」では19のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の施策について、あなたの実感についておたずねします。
右ページも参考に、いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)









県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【産業関連】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」が47.1%、【交流関連】分野の「空港の便数や新幹線の停車回数など交通拠点の利便性や、交通拠点と観光地などを結ぶ二次交通の充実、道路網整備など、交通ネットワークの整備が進んでいる」が41.6%、【生活関連】分野の「コミュニティ・スクールが中心となり、学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもたちの学びや育ちを見守り支援する取組が進んでいる」が41.1%などで高くなっている。

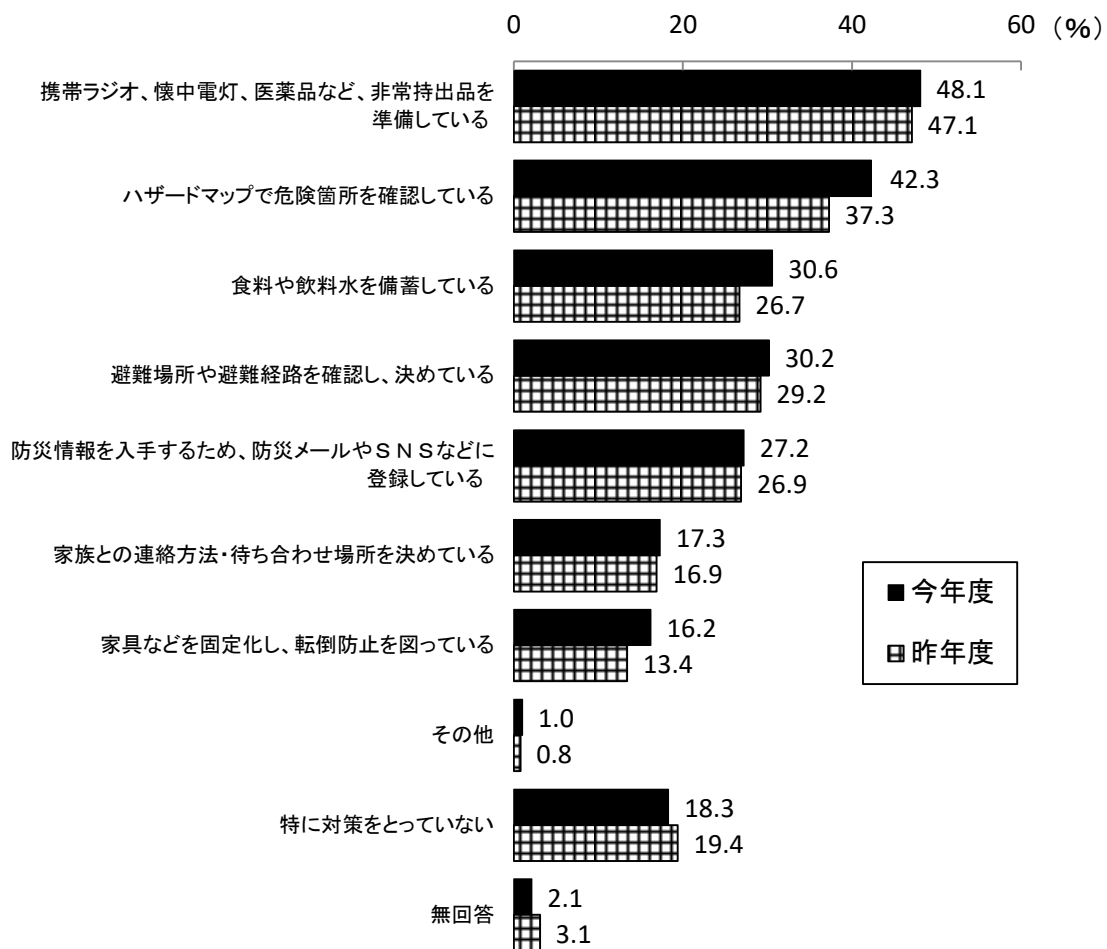
一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【産業関連】分野の「衛星データ利用の取組や、航空機・宇宙機器産業への県内企業の参入、IoT・ビッグデータ・ロボット・AI活用などの第4次産業革命など、新たな産業やビジネス創出の取組が進んでいる」が35.4%、【生活関連】分野の「若者の県内就職・定着に向けた支援が進んでいる」が34.3%、【産業関連】分野の「本県の産業を担う人材の育成や確保に向けた取組が進んでいる」が31.0%などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている14項目』

5. 防災・減災対策について

5-1. 実行している防災対策

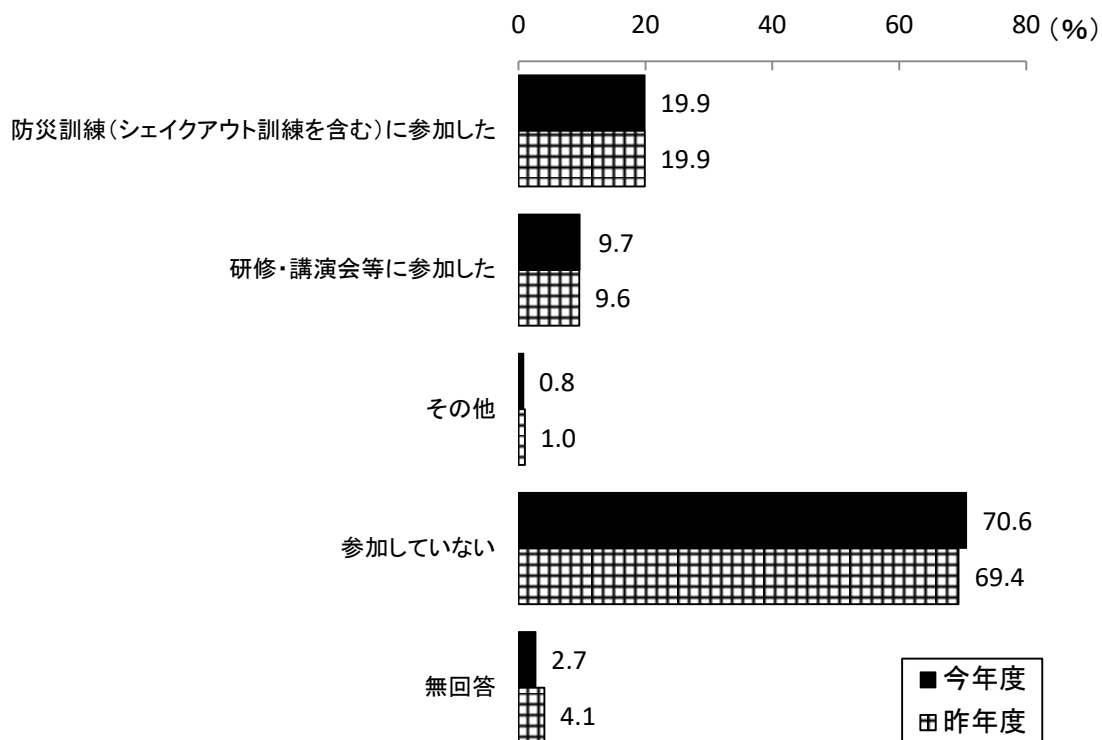
Q5-1 あなたの家庭では、台風や地震などの災害に備え、どのような防災対策を行っていますか。(〇はいくつでも)



行っている防災対策について、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など、非常持出品を準備している」が48.1%と最も高く、次いで「ハザードマップで危険箇所を確認している」が42.3%、「食料や飲料水を備蓄している」が30.6%の順となっている。また、「特に対策をとっていない」は18.3%となり、昨年度と比較すると1.1ポイント低下している。

5-2. 参加した防災活動

Q5-2 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場などでの防災活動（シェイクアウト訓練※）、防災訓練、研修・講演などへの参加）に参加したことがありますか。
 (〇はいくつでも)



過去1年間に、防災活動に「参加していない」が70.6%と最も高い。参加した中では、「防災訓練（シェイクアウト訓練を含む）に参加した」が19.9%、「研修・講演会等に参加した」が9.7%、その他が0.8%の順となっている。

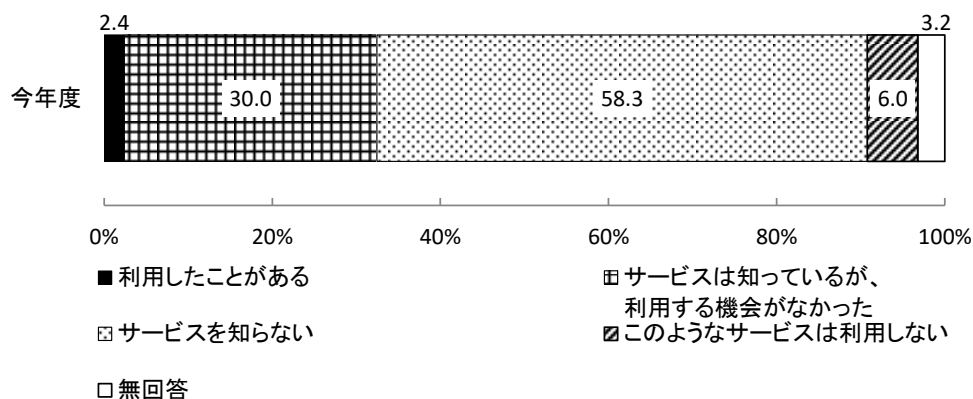
※「シェイクアウト訓練」：合図に併せ、「DROP!(まず低く!)」、「COVER!(頭を守り!)」、「HOLD ON!(動かない)」の三つの行動をとる訓練

6. 山口県救急安心センター事業（救急医療電話相談「#7119」）の利用について

山口県の救急医療電話相談「#7119」とは、県民の皆さんの救急医療相談に応えるため、相談ダイヤル「#7119」、または「083-921-7119」により、急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼んだほうがいいのか、今すぐ病院に行ったほうがいいのか」など迷った際に、看護師等から電話でアドバイスを受けられるサービスです。

6-1. 救急医療電話相談「#7119」の利用状況

Q6-1 あなたは、本県実施のこのサービスを利用したことがありますか。（○は1つ）

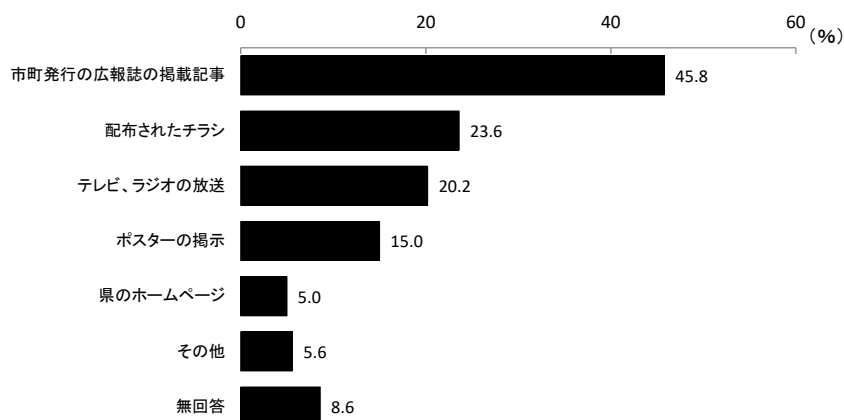


「救急医療電話相談」の利用状況について、「サービスを知らない」が58.3%と最も高く、次いで「サービスは知っているが、利用する機会がなかった」が30.0%、「このようなサービスは利用しない」が6.0%、「利用したことがある」が2.4%の順となっている。

6-2. 救急医療電話相談「#7119」の認知媒体

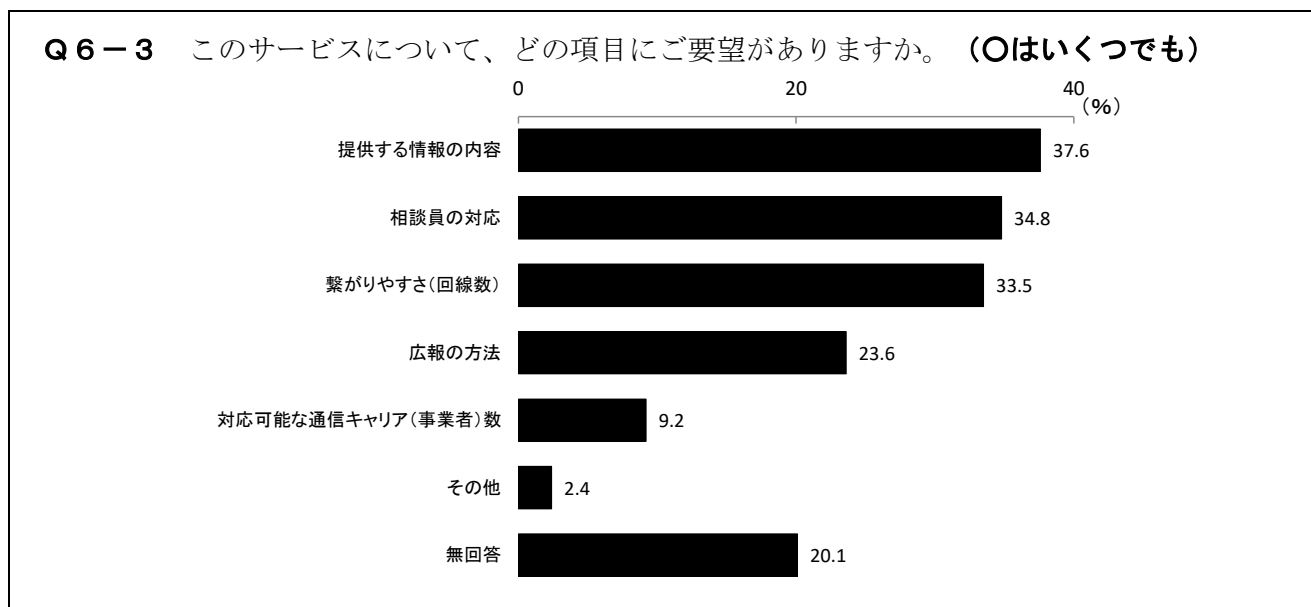
【Q6-1で「利用したことがある」、「サービスは知っているが、利用する機会がなかった」、「このようなサービスは利用しない」と回答した方に】 (n=605)

Q6-2 このサービスを何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）



Q6-1で「利用したことがある」、「サービスは知っているが、利用する機会がなかった」、「このようなサービスは利用しない」と回答した方に「救急医療電話相談」の認知媒体について質問すると、「市町発行の広報誌の掲載記事」が45.8%と最も高く、次いで「配布されたチラシ」が23.6%、「テレビ、ラジオの放送」が20.2%、「ポスターの掲示」が15.0%、「県のホームページ」が5.0%の順となっている。

6-3. 救急医療電話相談「#7119」への要望

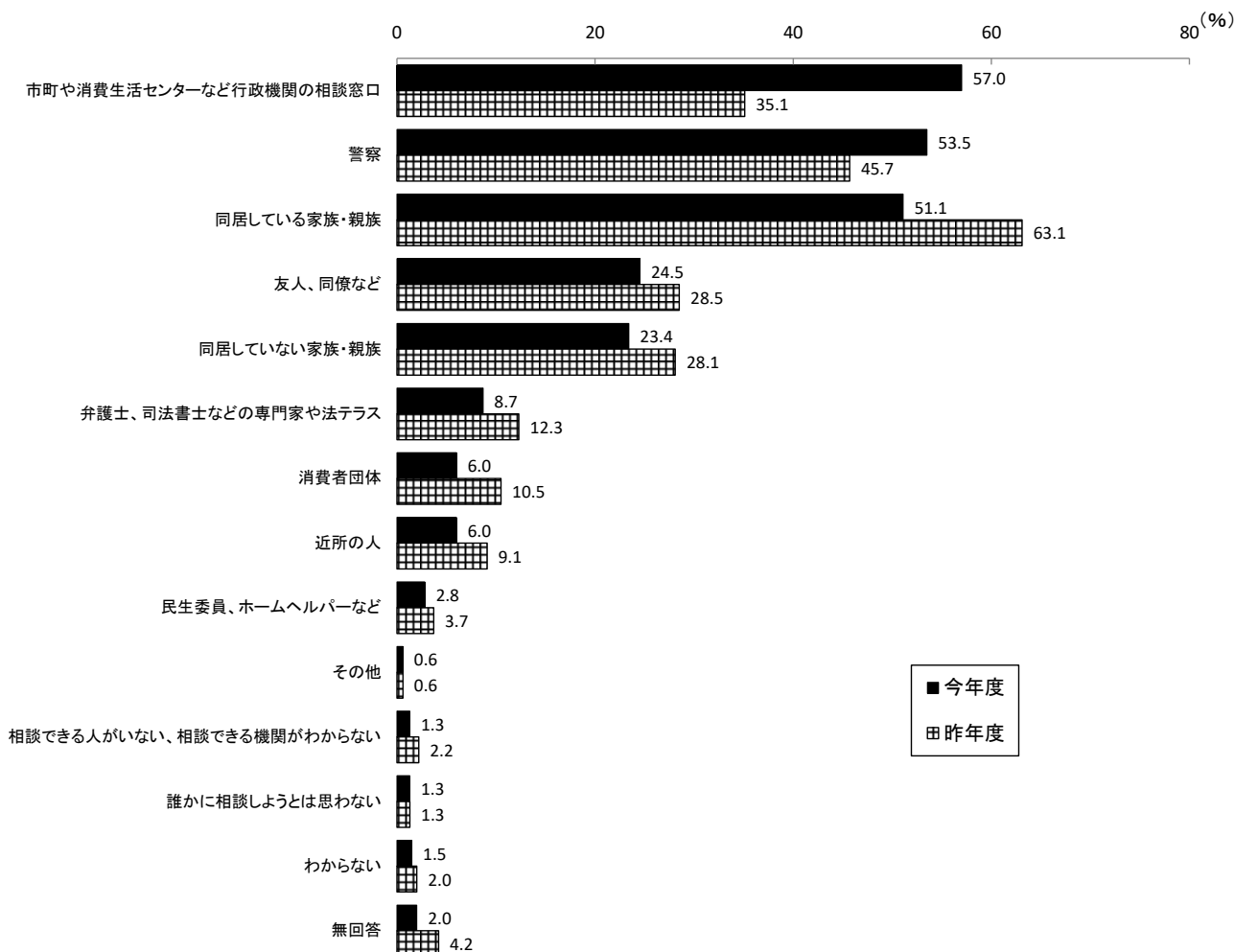


「救急医療電話相談」の要望について、「提供する情報の内容」が37.6%と最も高く、次いで「相談員の対応」が34.8%、「繋がりがやすさ(回線数)」が33.5%、「広報の方法」が23.6%、「対応可能な通信キャリア(事業者)数」9.2%の順となっている。

7. 消費生活に関することについて

7-1. 被害を受けた時の相談相手

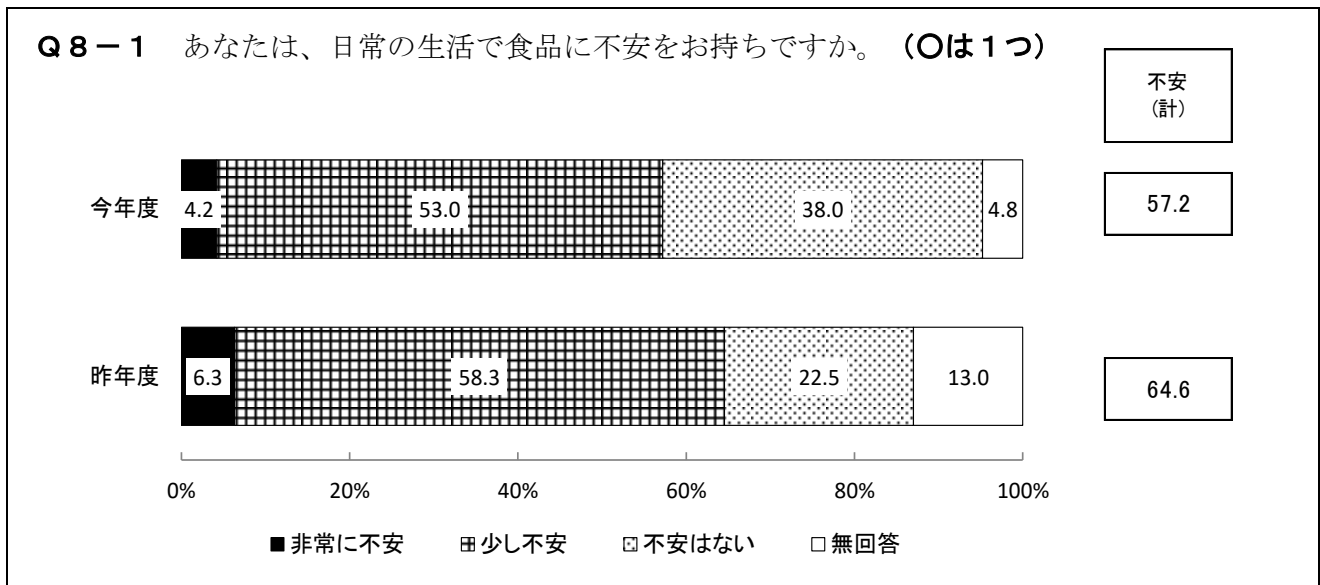
Q7-1 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)



被害を受けた時の相談相手について、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が57.0%と最も高く、次いで「警察」が53.5%、「同居している家族・親族」が51.1%、「友人、同僚など」が24.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が21.9ポイント、「警察」が7.8ポイントそれぞれ上昇し、「同居している家族・親族」が12.0ポイント、「同居していない家族・親族」が4.7ポイント低下している。

8. 食の安心・安全について

8-1. 食品に対する不安

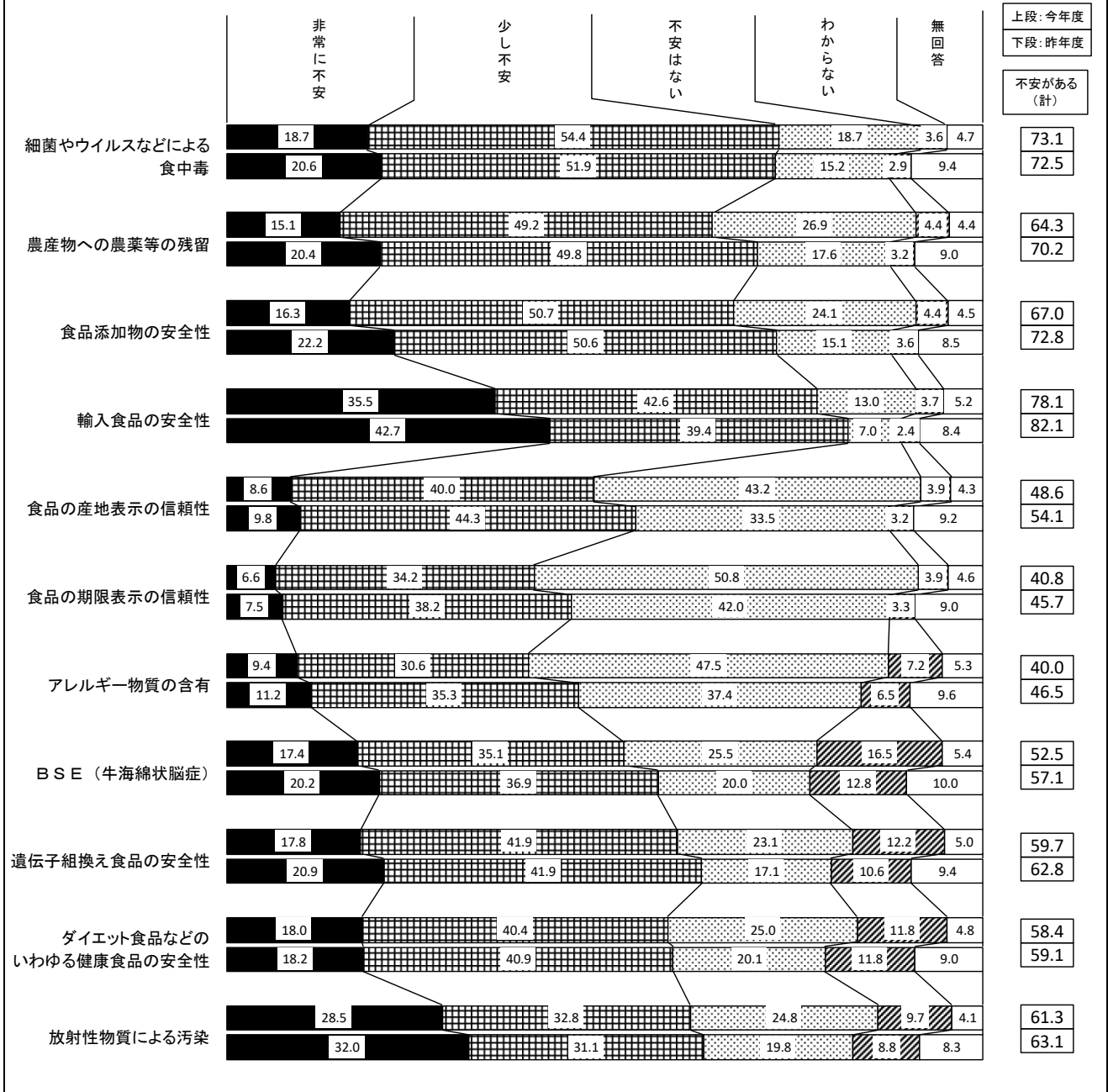


食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は57.2%と5割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は7.4ポイント低下している。

8-2. 食品に対する不安の要因

Q8-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。

いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

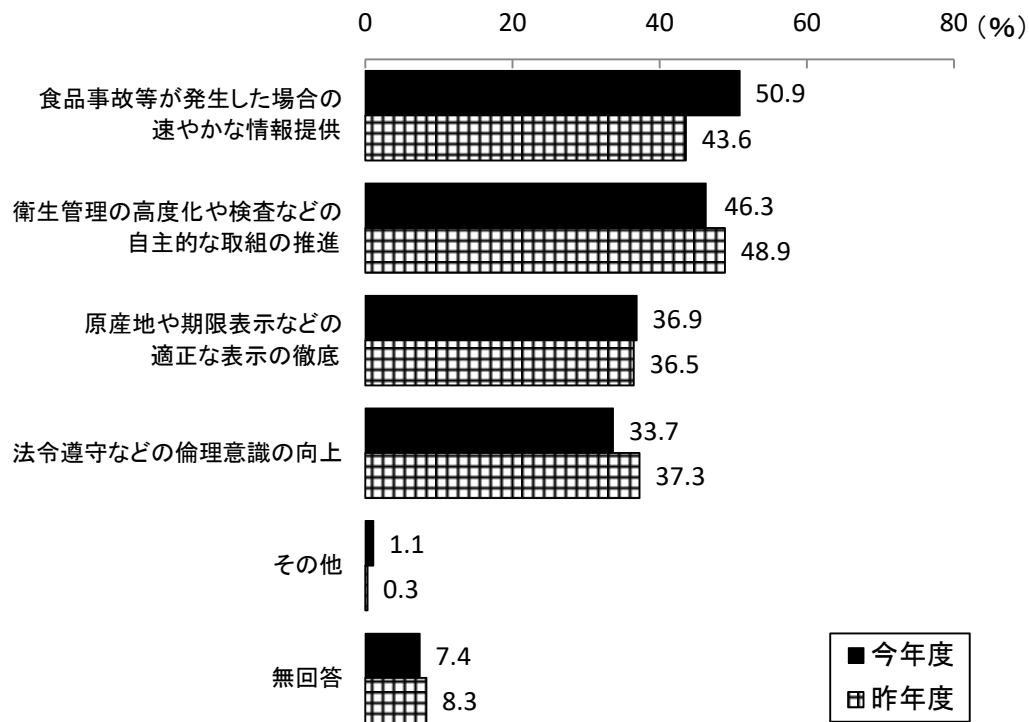


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で78.1%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「アレルギー物質の含有」は6.5ポイント、「農産物への農薬等の残留」は5.9ポイントと『不安(計)』がそれぞれ低下している。

8-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

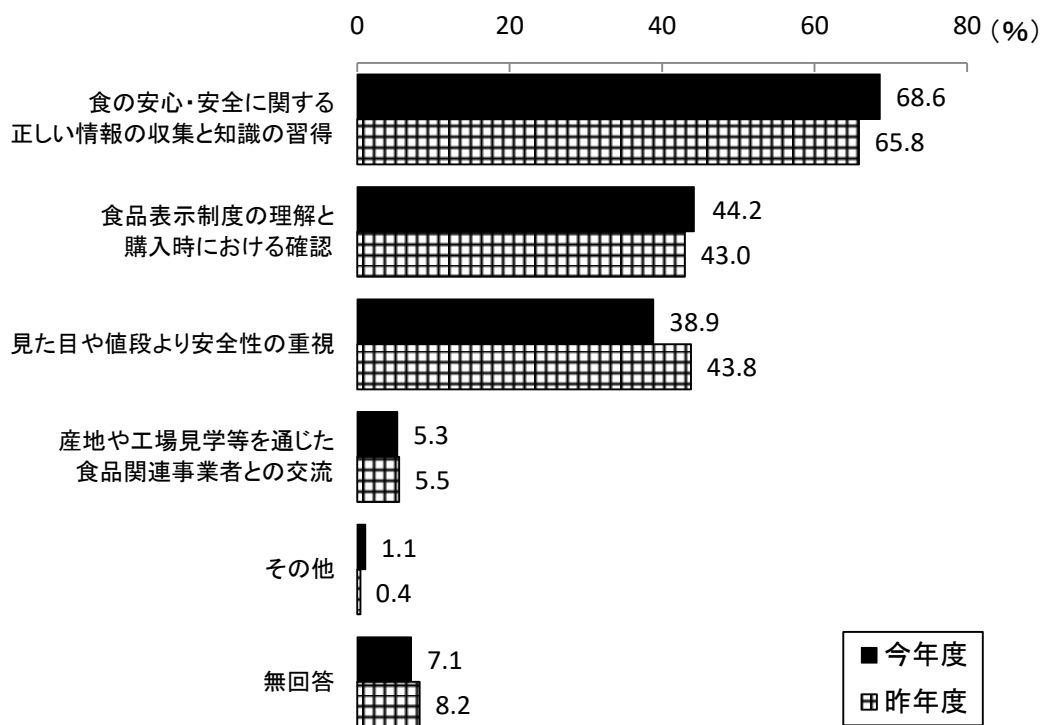
Q8-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組（○は2つまで）



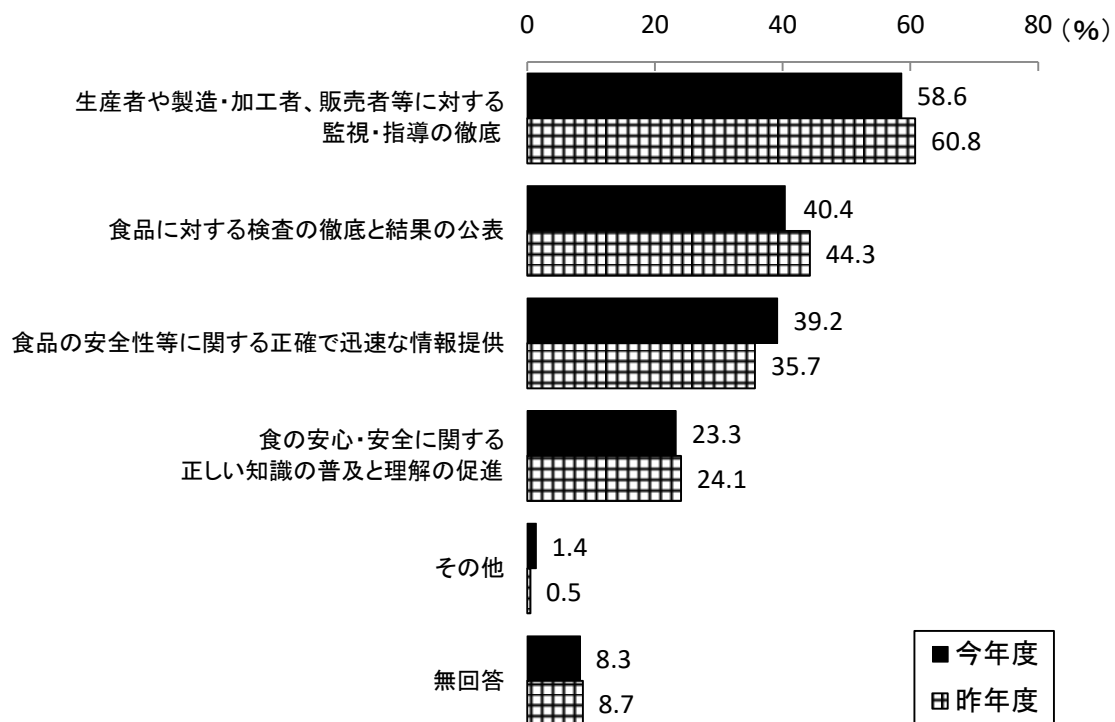
安全で安心な食生活を送るために「食品関連事業者」に望む取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が50.9%と最も高く、次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が46.3%、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」が36.9%、「法令遵守などの倫理意識の向上」が33.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が7.3ポイント上昇し、「法令遵守などの倫理意識の向上」が3.6ポイント低下している。

(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が68.6%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」が44.2%、「見た目や値段より安全性の重視」が38.9%、「産地や工場見学等を通じた食品関連事業者との交流」が5.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が2.8ポイント、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が1.2ポイントとそれぞれ上昇している。

(3) 県に望む取組 (〇は2つまで)



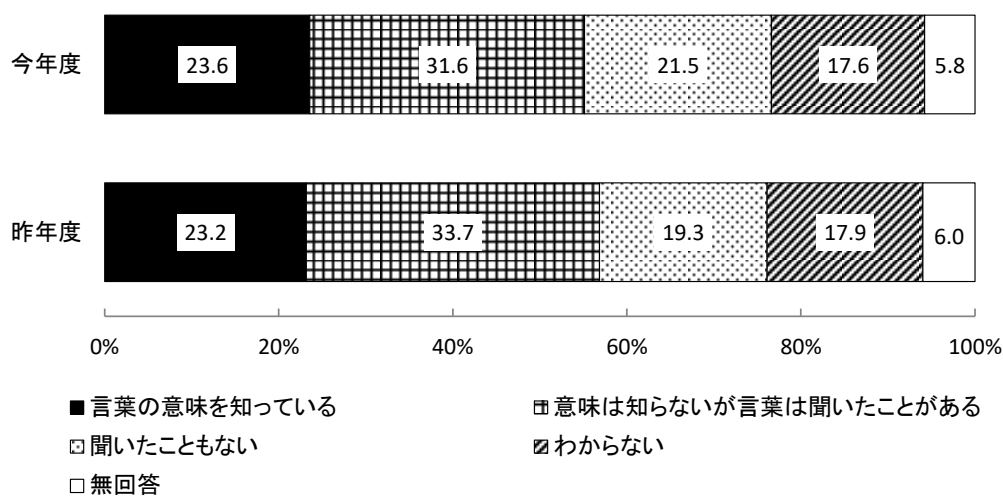
安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が58.6%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が40.4%、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が39.2%、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」が23.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が3.5ポイント上昇している。

9. 生物多様性について

「生物多様性」とは、様々な生き物がいたり、山・川・海など生き物が暮らせる豊かな自然があることです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

9-1. 「生物多様性」の認知状況

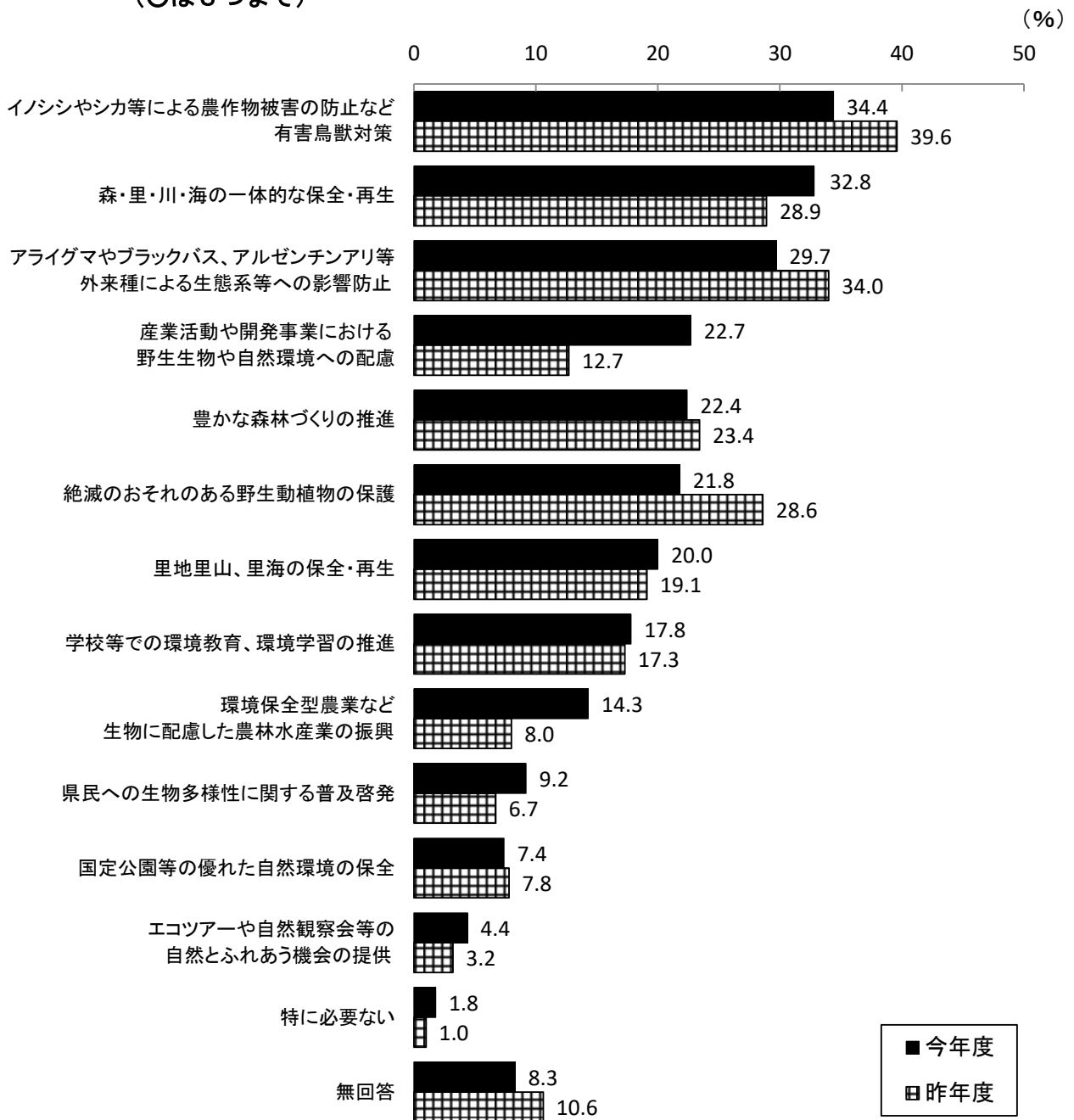
Q9-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が31.6%と最も高く、次いで「言葉の意味を知っている」が23.6%、「聞いたこともない」が21.5%、「わからない」が17.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「聞いたこともない」が2.2ポイント上昇している。

9-2. 生物多様性を守るために必要な取組

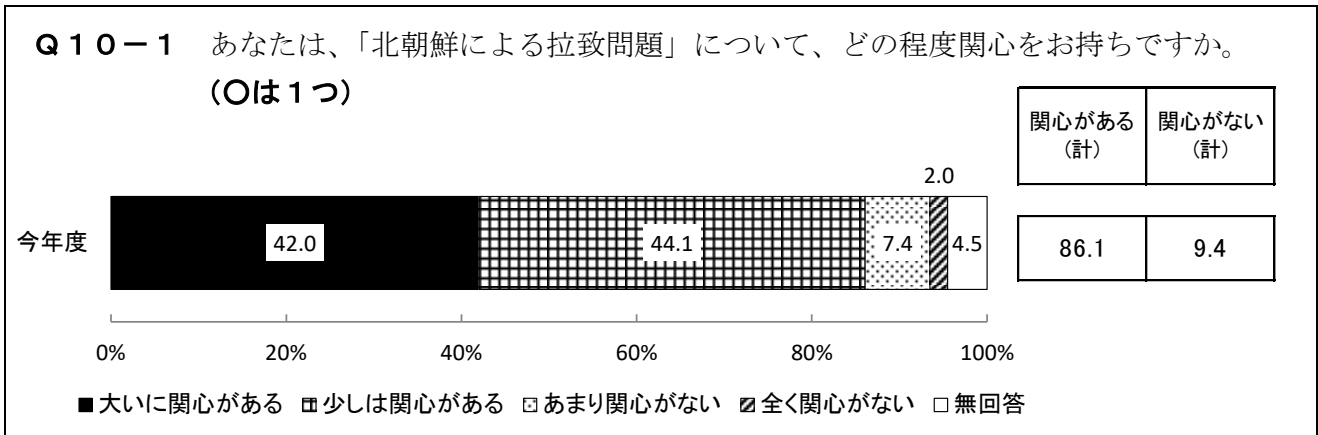
Q9-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



生物多様性を守るための必要な取組について、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が34.4%と最も高く、次いで「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が32.8%、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が29.7%、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」が22.7%、「豊かな森林づくりの推進」が22.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」は10.0ポイント上昇した一方、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」は6.8ポイント低下している。

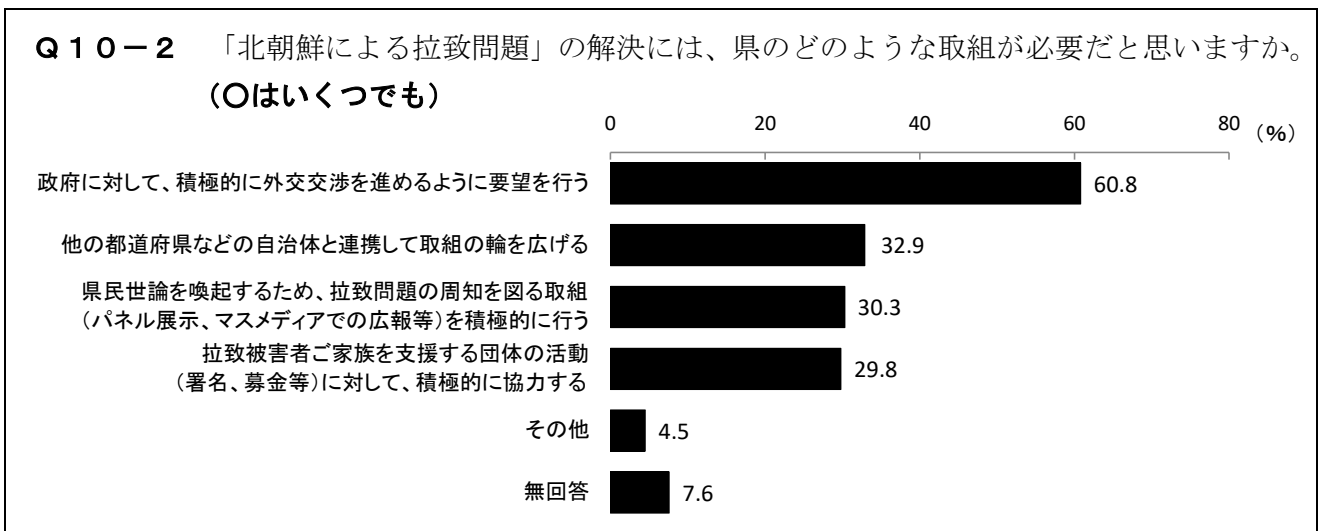
10. 北朝鮮による拉致問題について

10-1. 「北朝鮮による拉致問題」についての関心



「北朝鮮による拉致問題」について、「大いに興味がある」と「少しは興味がある」を合わせた『関心がある (計)』が 86.1%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 9.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。

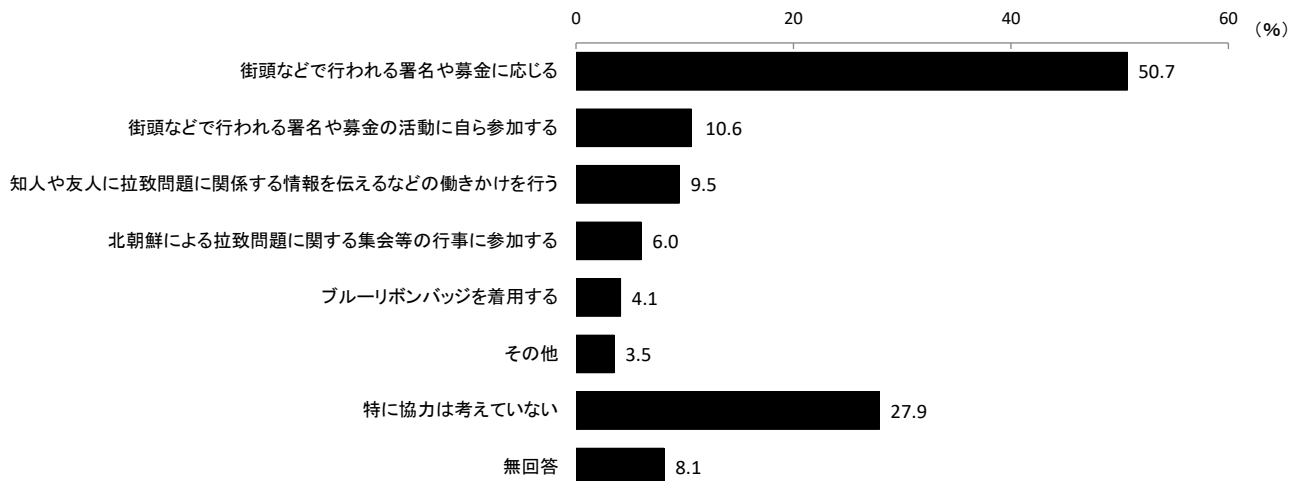
10-2. 「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組



「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組について、「政府に対して、積極的に外交交渉を進めるように要望を行う」が 60.8%と最も高く、次いで「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が 32.9%、「県民世論を喚起するため、拉致問題の周知を図る取組 (パネル展示、マスメディアでの広報等) を積極的に行う」が 30.3%、「拉致被害者ご家族を支援する団体の活動 (署名、募金等) に対して、積極的に協力する」が 29.8%の順となっている。

10-3. 「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けての今後の協力

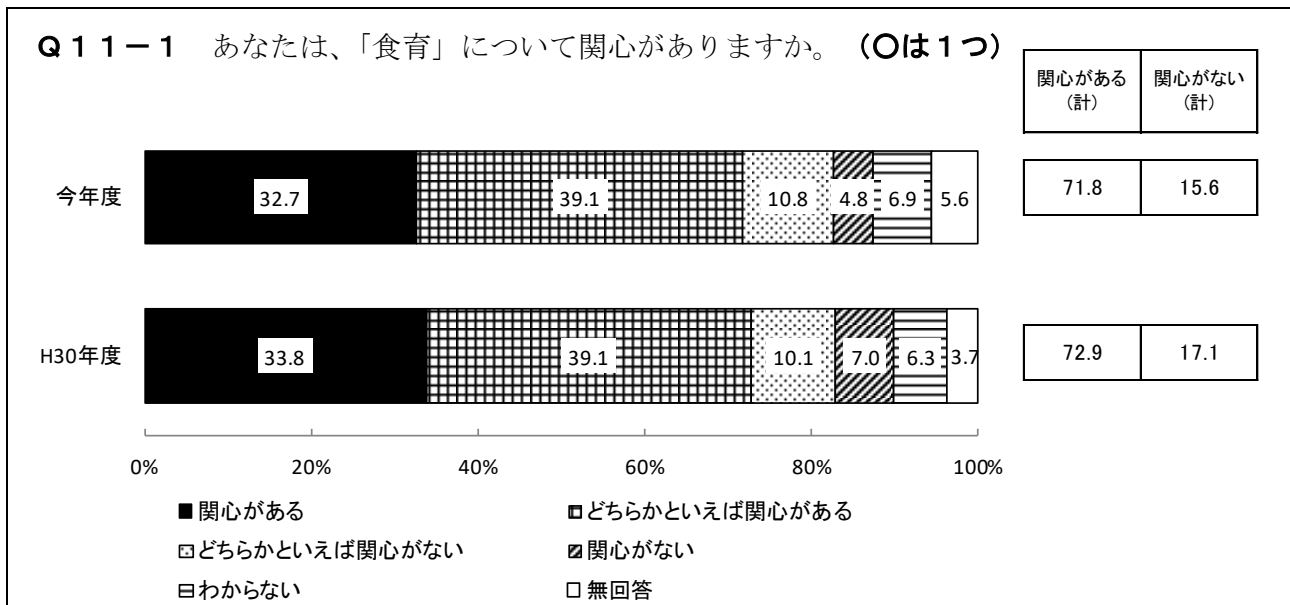
Q10-3 「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて、あなたは、今後どのように協力していきたいですか。（〇はいくつでも）



「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて今後協力していきたいことについて、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が50.7%と最も高く、次いで「街頭などで行われる署名や募金の活動に自ら参加する」が10.6%、「知人や友人に拉致問題に関する情報を伝えるなどの働きかけを行う」が9.5%、「北朝鮮による拉致問題に関する集会等の行事に参加する」が6.0%、「ブルーリボンバッジを着用する」が4.1%の順となっている。また、「特に協力は考えていない」は27.9%となっている。

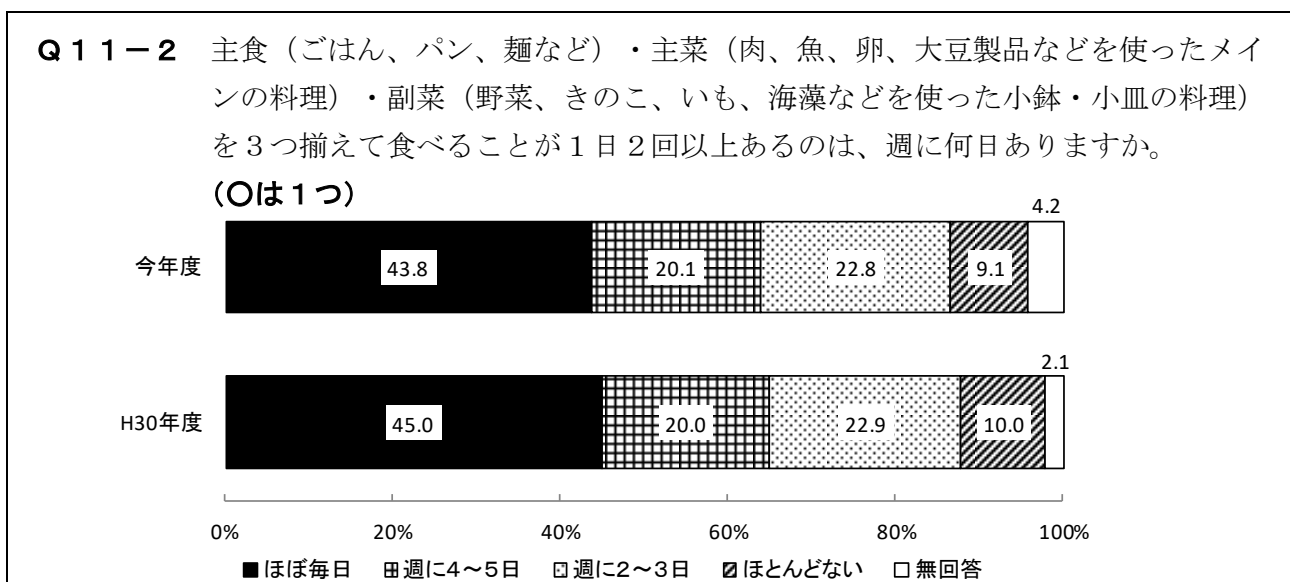
11. 食育について

11-1. 「食育」についての関心



「食育」について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が71.8%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が15.6%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、『関心がある (計)』は1.1ポイント低下、『関心がない (計)』も1.5ポイント低下している。

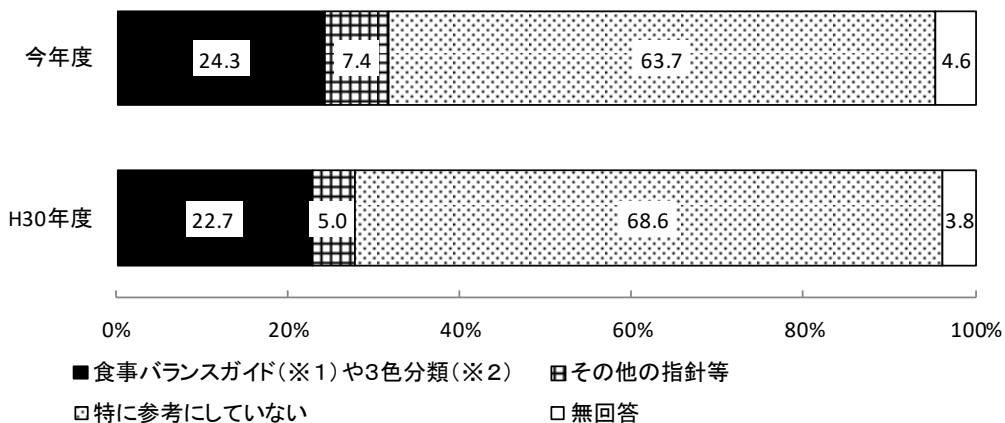
11-2. 主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度



主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度は、「ほぼ毎日」が43.8%と最も高く、次いで「週に2~3日」が22.8%、「週に4~5日」が20.1%、「ほとんどない」が9.1%の順となっている。H30年度と比較すると、「ほぼ毎日」は1.2ポイント低下している。

11-3. 日頃の健全な食生活を実践するために参考にする指針

Q11-3 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。（〇は1つ）



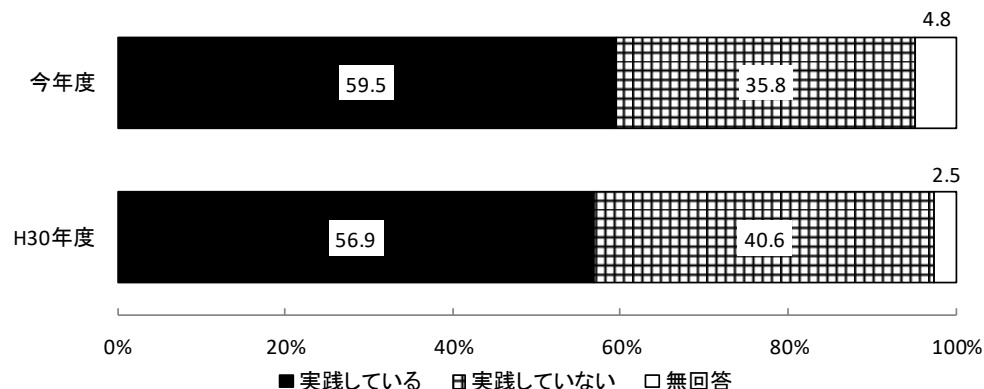
※1 「食事バランスガイド」：「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの

※2 「3色分類」：食品の体内での主な働きを3つに分けて、主な食品を分類したもの

日頃の健全な食生活を実践するために参考にする指針は、「特に参考にしていない」が63.7%と最も高く、次いで「食事バランスガイドや3色分類」が24.3%、「その他の指針等」が7.4%、の順となっている。H30年度と比較すると、「その他の指針等」は2.4ポイント、「食事バランスガイドや3色分類」は1.6ポイント上昇、「特に参考にしていない」は4.9ポイント低下している。

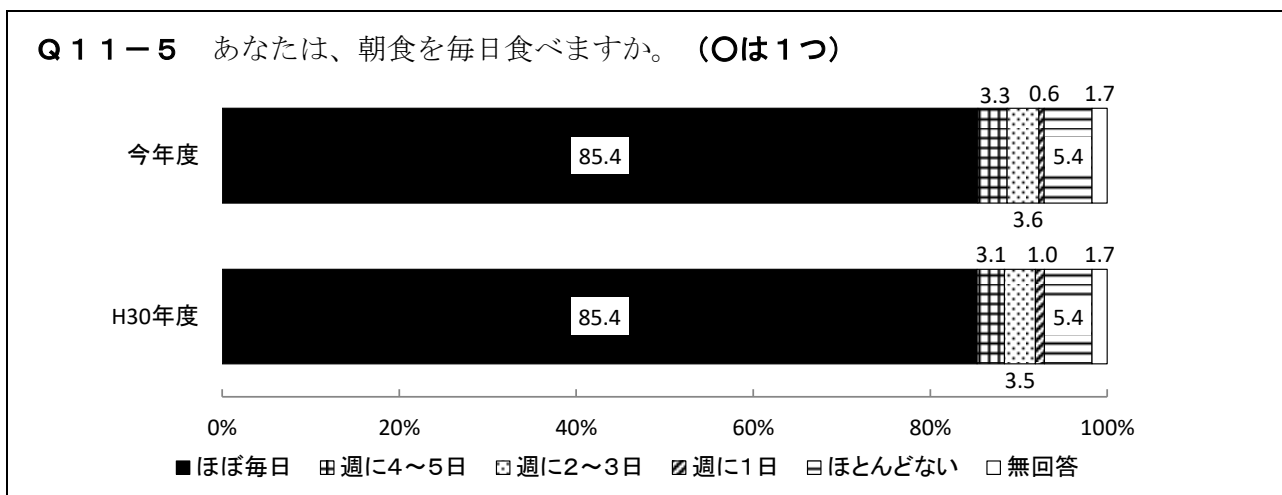
11-4. 適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活の実践

Q11-4 あなたは、生活習慣病の予防や改善のために普段から適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践していますか。（〇は1つ）



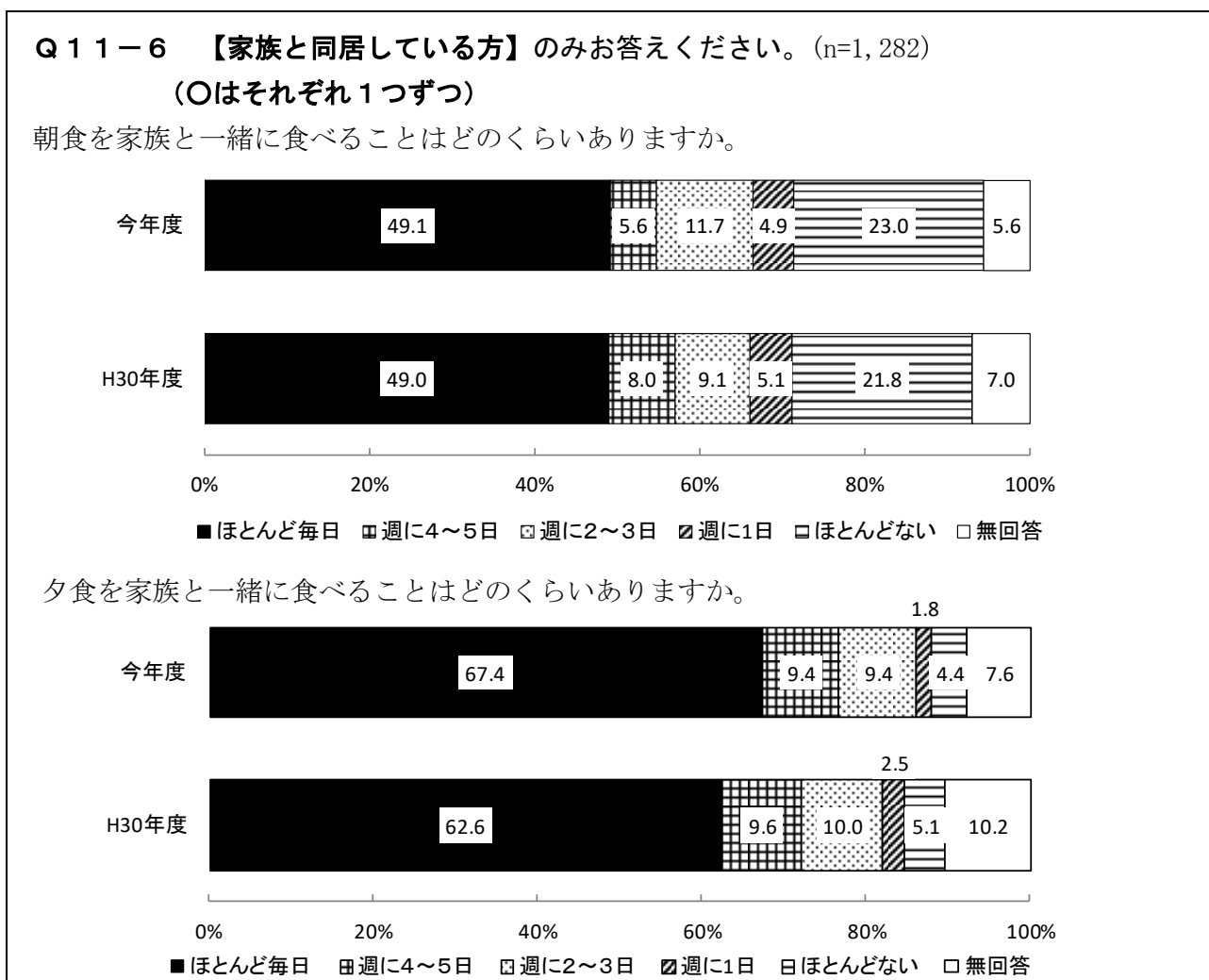
適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活の実践について、「実践している」が59.5%、「実践していない」が35.8%と、実践している人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、「実践している」は2.6ポイント上昇、「実践していない」は4.8ポイント低下している。

11-5. 朝食を食べる頻度



朝食を食べる頻度は、「ほぼ毎日」が85.4%と突出して高く、次いで「ほとんどない」が5.4%、「週に2~3日」が3.6%、「週に4~5日」が3.3%、「週に1日」が0.6%の順となっている。

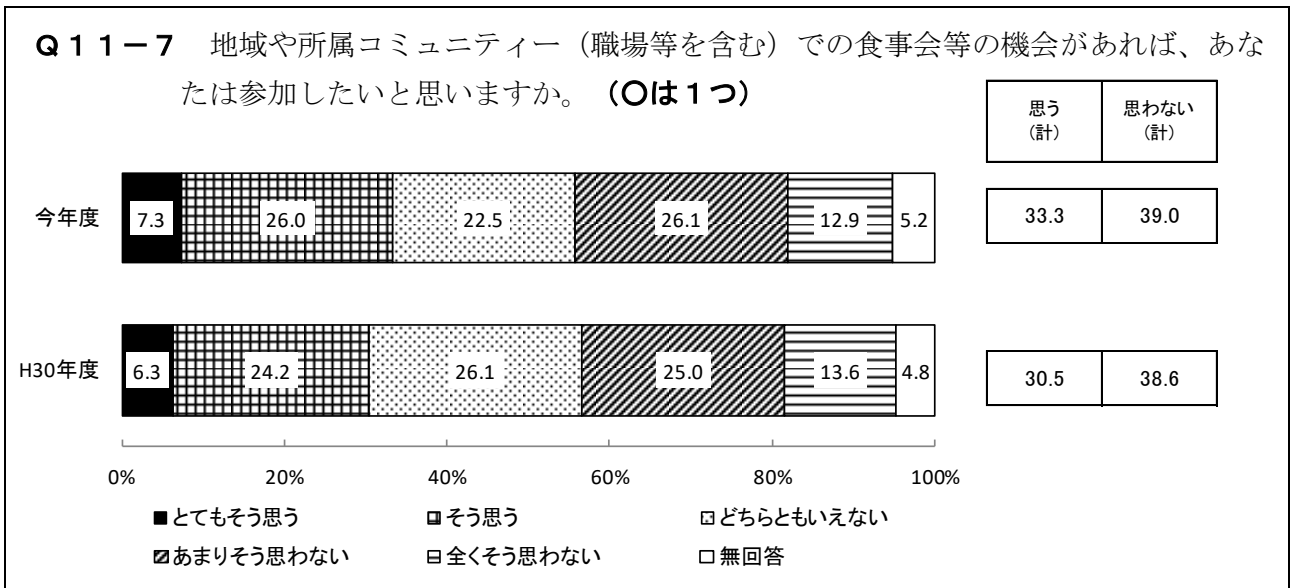
11-6. 家族と一緒に食事をする頻度



家族と同居している方に、家族と一緒に食事をする頻度について質問すると、朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日」が 49.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」が 23.0%、「週に2～3日」が 11.7%、「週に4～5日」が 5.6%、「週に1日」が 4.9%の順となっている。

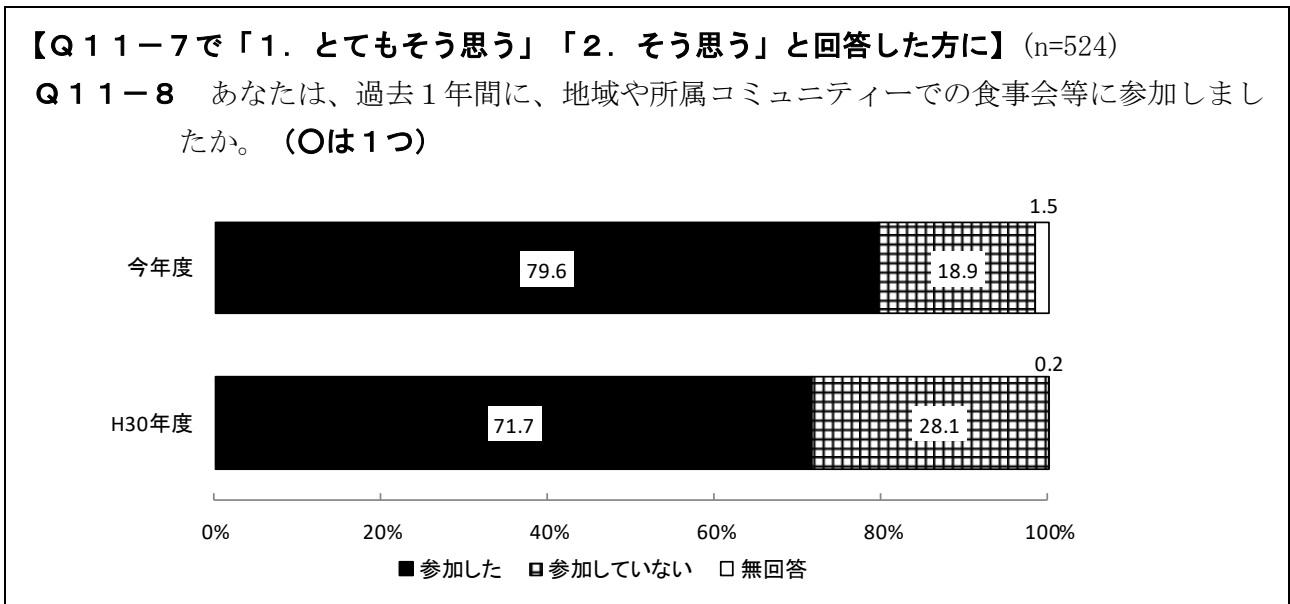
また、夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「ほとんど毎日」が 67.4%と最も高く、次いで「週に4～5日」、「週に2～3日」がそれぞれ 9.4%、「ほとんどない」が 4.4%、「週に1日」が 1.8%の順となっている。

11-7. 地域や所属コミュニティでの食事会への参加希望



地域や所属コミュニティでの食事会への参加希望について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『思う(計)』が33.3%、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない(計)』が39.0%と、参加を希望しない人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、『思う(計)』は2.8ポイント上昇、『思わない(計)』も0.4ポイント上昇している。

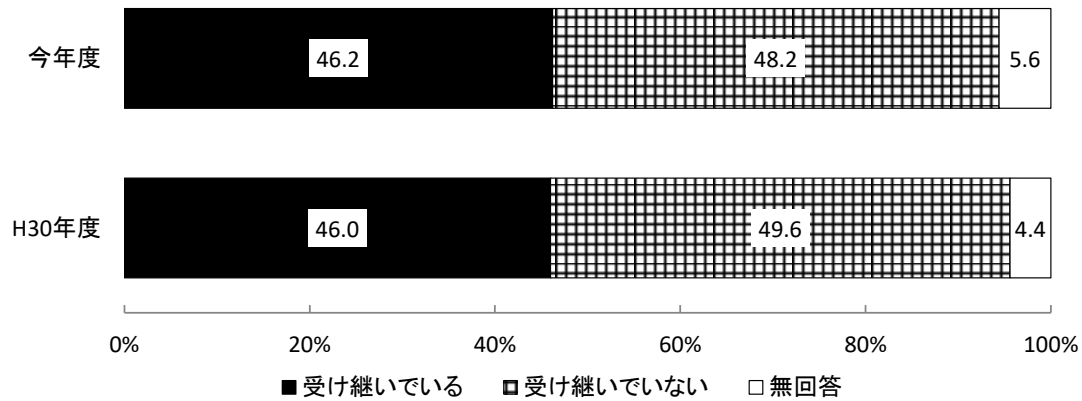
11-8. 地域や所属コミュニティでの食事会への参加経験



Q11-7で「1. とてもそう思う」「2. そう思う」と回答した方に、過去1年間の地域や所属コミュニティでの食事会への参加経験について質問すると、「参加した」が79.6%、「参加していない」が18.9%と、参加した人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、「参加した」は7.9ポイント上昇、「参加していない」は9.2ポイント低下している。

11-9. 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の継承

Q11-9 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つ)

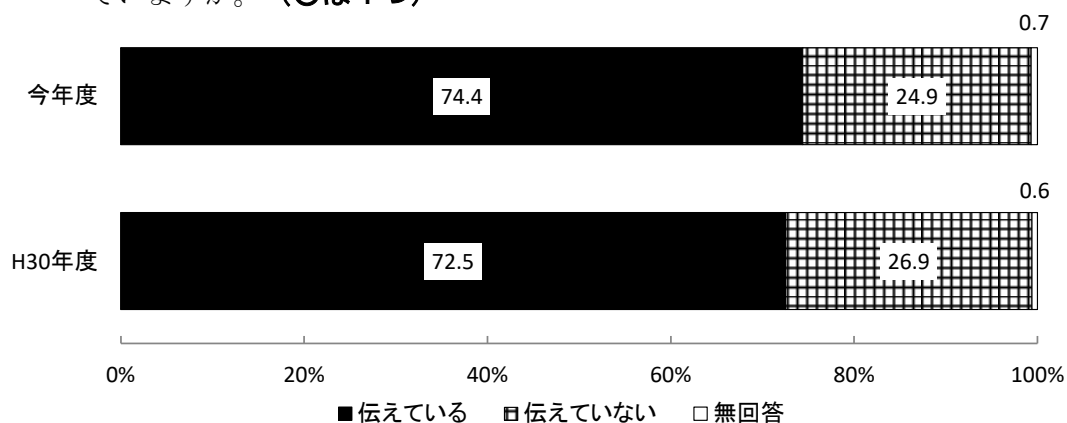


地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の継承について、「受け継いでいる」が46.2%、「受け継いでいない」が48.2%と、受け継いでいない人の割合がやや高くなっている。H30年度と比較すると、「受け継いでいる」は0.2ポイント上昇、「受け継いでいない」は1.4ポイント低下している。

11-10. 地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の次世代への継承

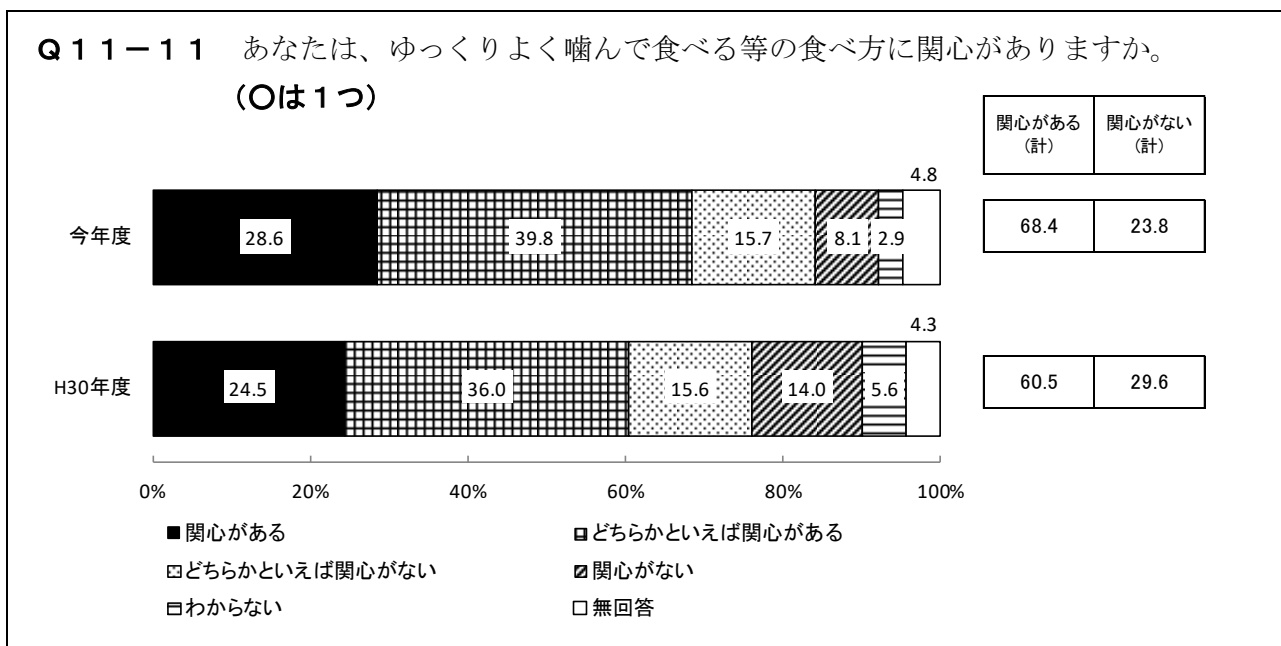
【Q11-9で「1. 受け継いでいる」と回答した方に】(n=726)

Q11-10 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代(子どもや孫を含む)に対して伝えていきますか。(〇は1つ)



Q11-9で「1. 受け継いでいる」と回答した方に、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食べ方・作法の次世代への継承について質問すると、「伝えている」が74.4%、「伝えていない」が24.9%と、伝えている人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、「伝えている」は1.9ポイント上昇、「伝えていない」は2.0ポイント低下している。

11-11. 食べ方への関心

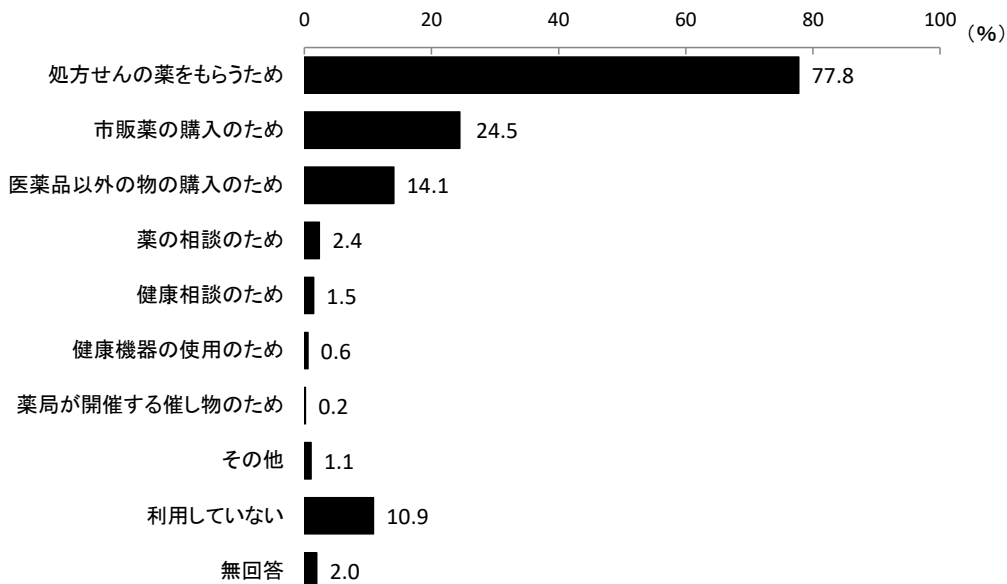


食べ方の関心について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が68.4%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が23.8%と、関心がある人の割合が高くなっている。H30年度と比較すると、『関心がある(計)』は7.9ポイント上昇、『関心がない(計)』は5.8ポイント低下している。

12. 健康サポートを担う薬局・薬剤師の活用状況について

12-1. 薬局の利用状況

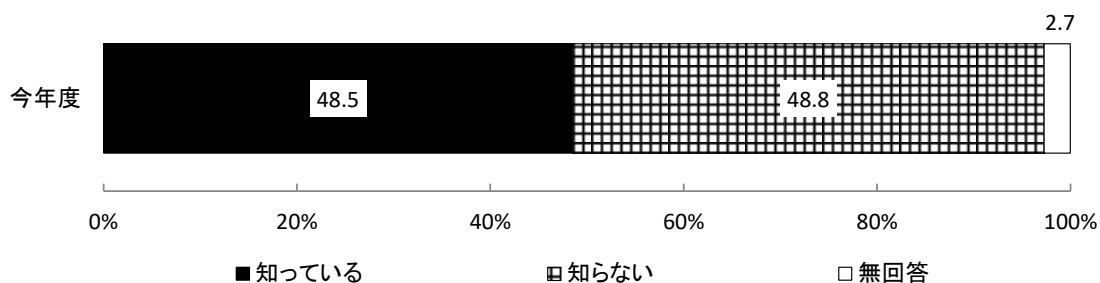
Q12-1 1年以内に薬局を利用していますか。その理由はどのようなことでしたか。
(〇はいくつでも)



薬局の利用状況について、「処方せんの薬をもらうため」が77.8%と最も高く、次いで「市販薬の購入のため」が24.5%、「医薬品以外の物の購入のため」が14.1%、「薬の相談のため」が2.4%、「健康相談のため」が1.5%、「健康機器の使用のため」が0.6%、「薬局が開催する催し物のため」が0.2%の順となっている。また、「利用していない」は10.9%となっている。

12-2. 薬剤師による健康相談の認知状況

Q12-2 薬剤師は、気軽に健康相談を受けていることをご存知ですか。(〇は1つ)



薬剤師による健康相談の認知状況について、「知っている」が48.5%、「知らない」が48.8%となっている。

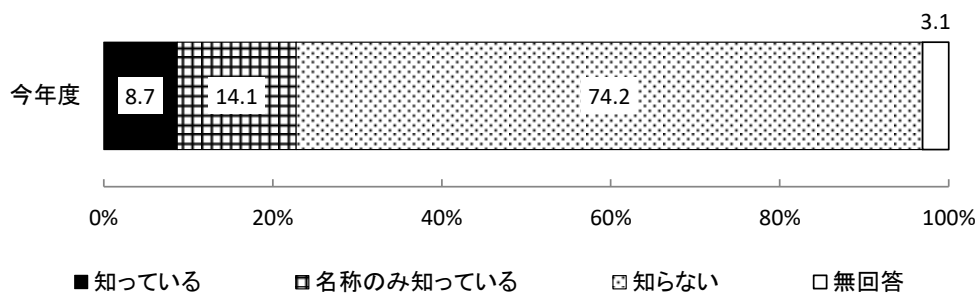
12-3. 健康サポート薬局の認知状況

健康サポート薬局：県民が主体的に行う健康の保持増進への取組を積極的に支援する薬局

◆具体的な内容◆

- ①健康サポートに関する専門の研修を修了した薬剤師がいつでも相談対応
- ②相談内容によって、医療機関での受診の提案や、介護施設などの紹介
- ③専門知識を持った薬剤師による市販薬や健康をサポートする健康食品、介護用品などの適切な商品選びのお手伝い
- ④週末も営業していて、お休みの日も気軽に薬局に相談
- ⑤プライバシーに配慮した相談スペースを用意
- ⑥どなたでも参加できる生活習慣や栄養相談、健康に関する相談や勉強会などのイベントの開催
- ⑦機器を使用する等による健康チェックや健康診断等の検査項目の解説、病気予防に向けたアドバイス

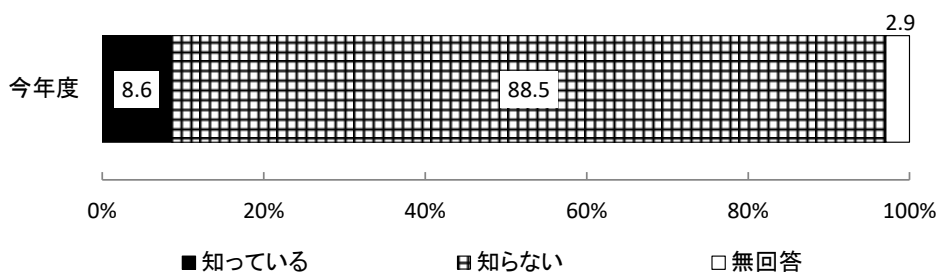
Q12-3 健康サポート薬局をご存じですか。（〇は1つ）



健康サポート薬局の認知状況について、「知らない」が74.2%で最も高く、次いで「名称のみ知っている」が14.1%、「知っている」が8.7%の順となっている。

12-4. 健康サポート薬局の見つけ方

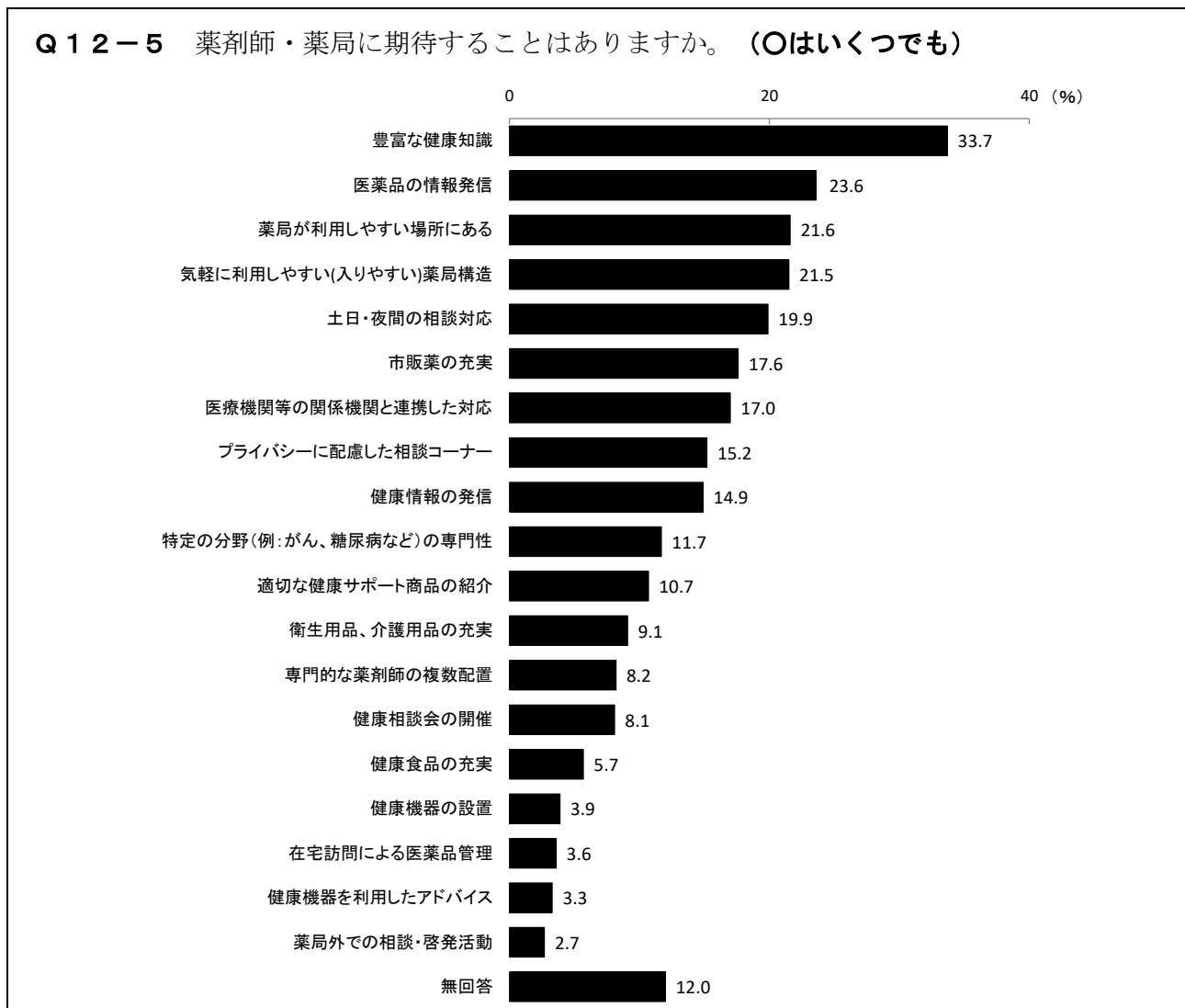
Q12-4 健康サポート薬局の見つけ方をご存じですか。（〇は1つ）



健康サポート薬局の多くは、「健康サポート薬局」の表示や健康サポート薬局のロゴマークを表示しています。

健康サポート薬局の見つけ方について、「知っている」が8.6%、「知らない」が88.5%となっている。

12-5. 薬剤師・薬局に期待すること

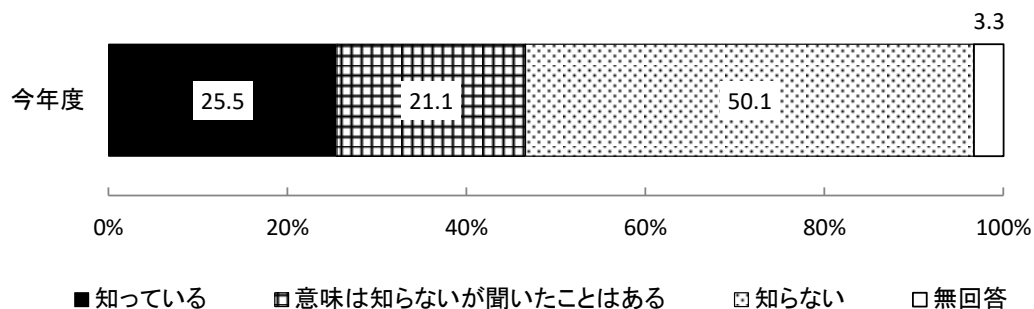


薬剤師・薬局に期待することについて、「豊富な健康知識」が33.7%と最も高く、次いで「医薬品の情報発信」が23.6%、「薬局が利用しやすい場所にある」が21.6%、「気軽に利用しやすい(入りやすい)薬局構造」が21.5%、「土日・夜間の相談対応」が19.9%、「市販薬の充実」が17.6%、「医療機関等の関係機関と連携した対応」が17.0%の順となっている。

13. 多文化共生について

13-1. 多文化共生の認知度

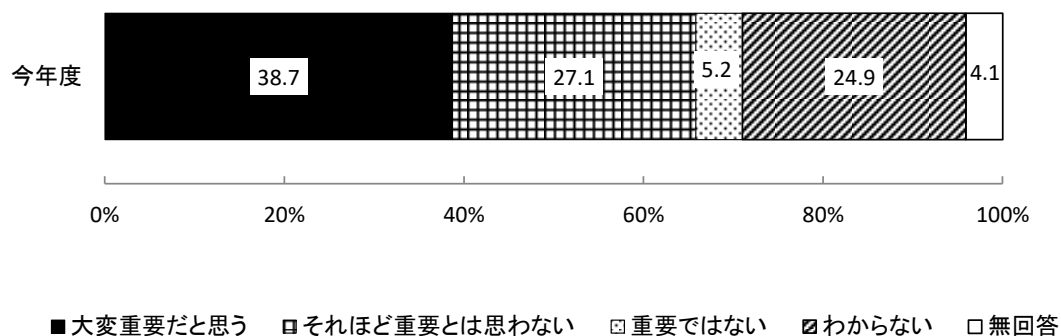
Q13-1 あなたは、「多文化共生」（地域住民と外国人が互いを認め合い共に暮らしていくこと）という言葉を知っていますか。（〇は1つ）



多文化共生の認知度について、「知らない」が50.1%で最も高く、次いで「知っている」が25.5%、「意味は知らないが聞いたことはある」が21.1%の順となっている。

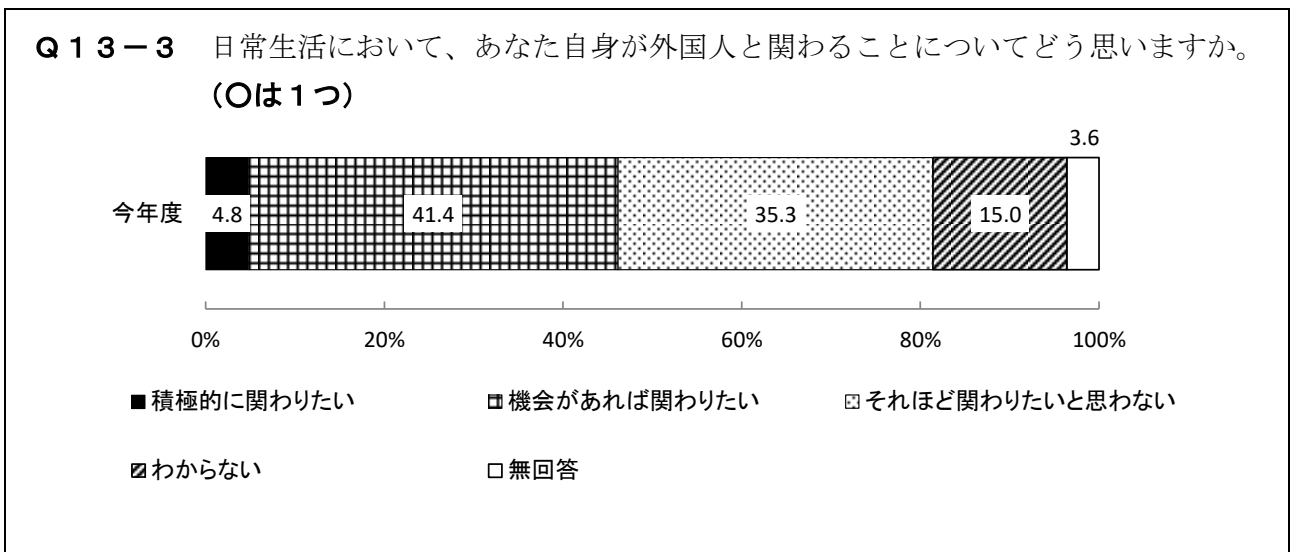
13-2. 多文化共生の推進

Q13-2 あなたは、多文化共生の推進について、どう思いますか。（〇は1つ）



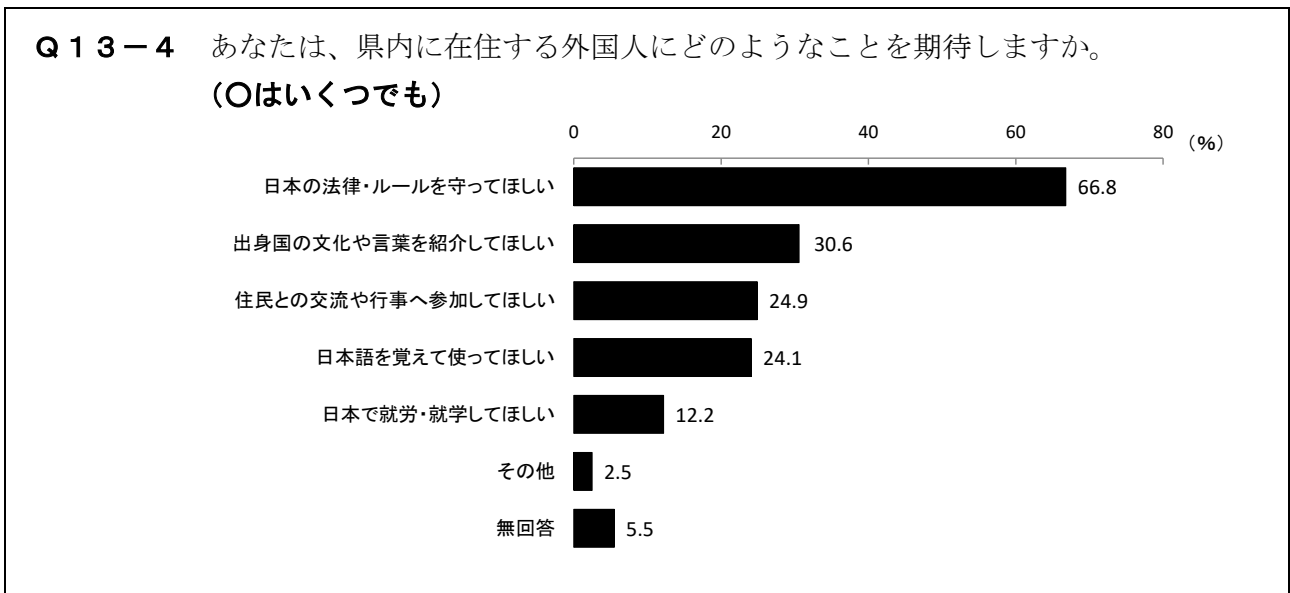
多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が38.7%で最も高く、次いで「それほど重要だとは思わない」が27.1%、「わからない」が24.9%、「重要ではない」が5.2%の順となっている。

13-3. 日常生活で外国人と関わることについて



日常生活で外国人と関わることについて、「機会があれば関わりたい」が41.4%で最も高く、次いで「それほど関わりたいと思わない」が35.3%、「わからない」が15.0%、「積極的に関わりたい」が4.8%の順となっている。

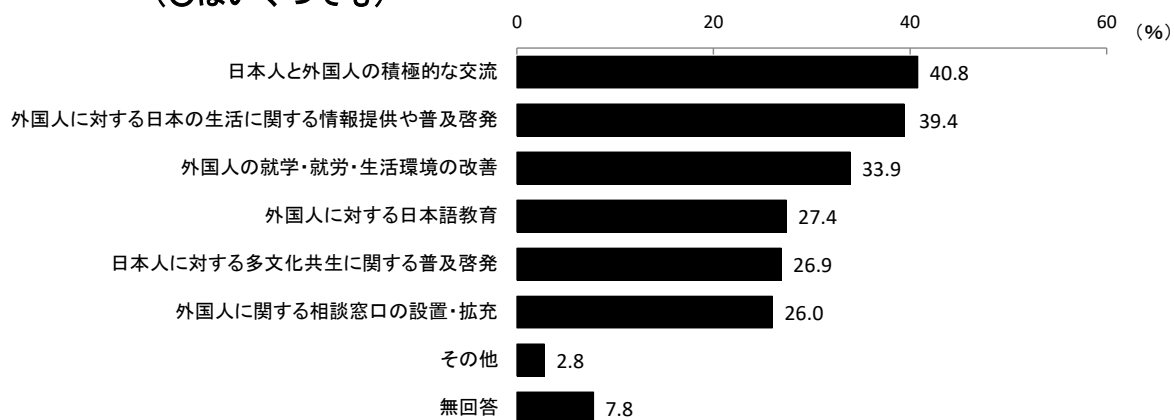
13-4. 県内在住の外国人へ期待すること



県内在住の外国人へ期待することについて、「日本の法律・ルールを守ってほしい」が66.8%で最も高く、次いで「出身国の文化や言葉を紹介してほしい」が30.6%、「住民との交流や行事へ参加してほしい」が24.9%、「日本語を覚えて使ってほしい」が24.1%、「日本で就労・就学してほしい」が12.2%の順となっている。

13-5. 多文化共生を推進していくために必要なこと

Q13-5 今後、多文化共生を推進していくためには何が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



多文化共生を推進していくために必要なことについて、「日本人と外国人の積極的な交流」が40.8%で最も高く、次いで「外国人に対する日本の生活に関する情報提供や普及啓発」が39.4%、「外国人の就学・就労・生活環境の改善」が33.9%、「外国人に対する日本語教育」が27.4%、「日本人に対する多文化共生に関する普及啓発」が26.9%、「外国人に関する相談窓口の設置・拡充」が26.0%の順となっている。

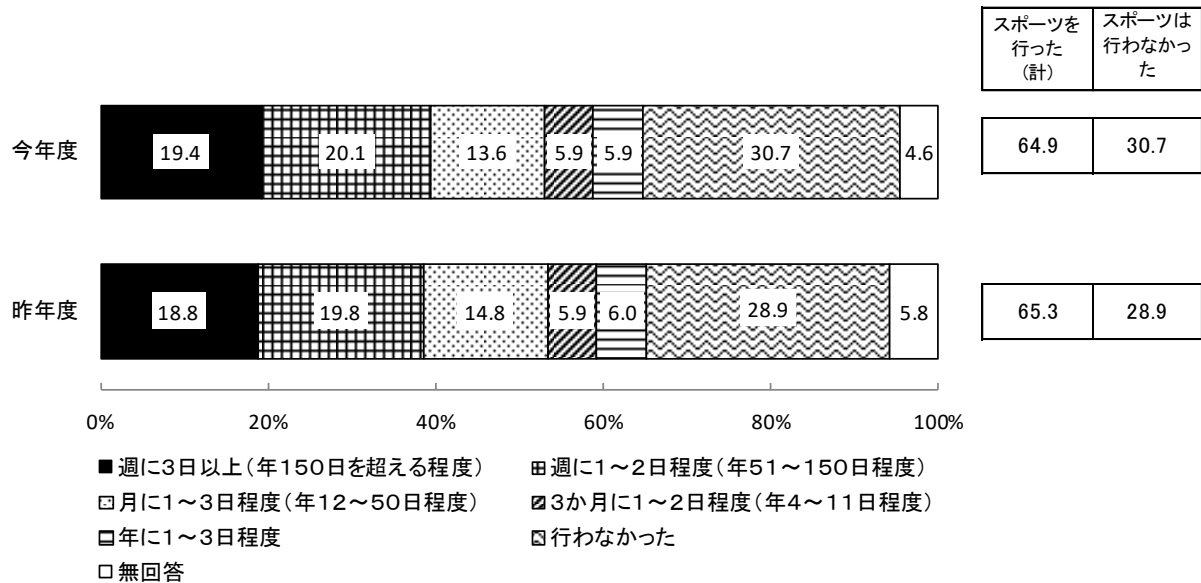
14. 運動・スポーツ活動の実施状況について

14-1. 運動・スポーツの実施頻度

Q14-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。

(○は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウィンタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます

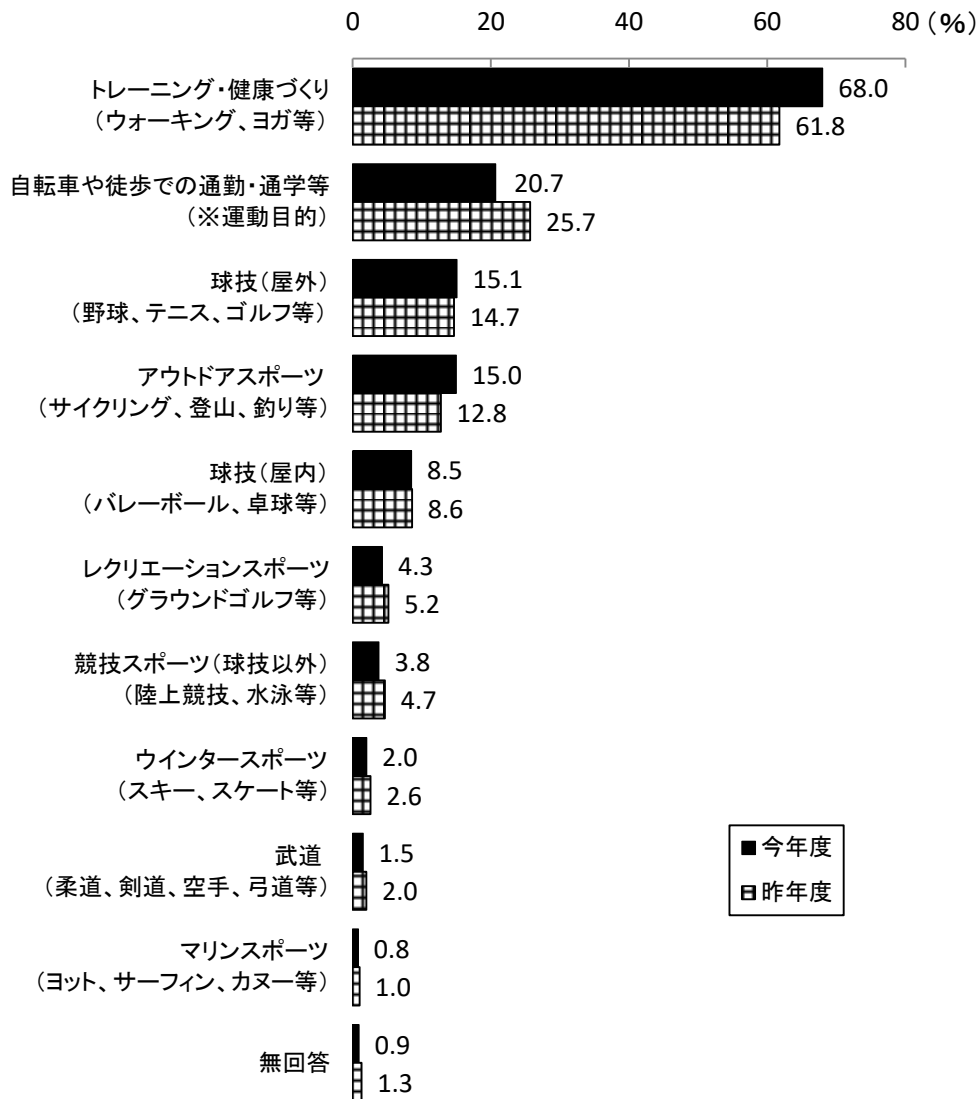


運動・スポーツの実施頻度について質問すると、「行わなかった」が30.7%となっており、昨年度と比較して1.8ポイント上昇している。次いで「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が20.1%、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が19.4%となっている。

14-2. どのような運動・スポーツを行ったか

【Q14-1で「1~5. 行った」と回答した方に】 (n=1,017)

Q14-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)

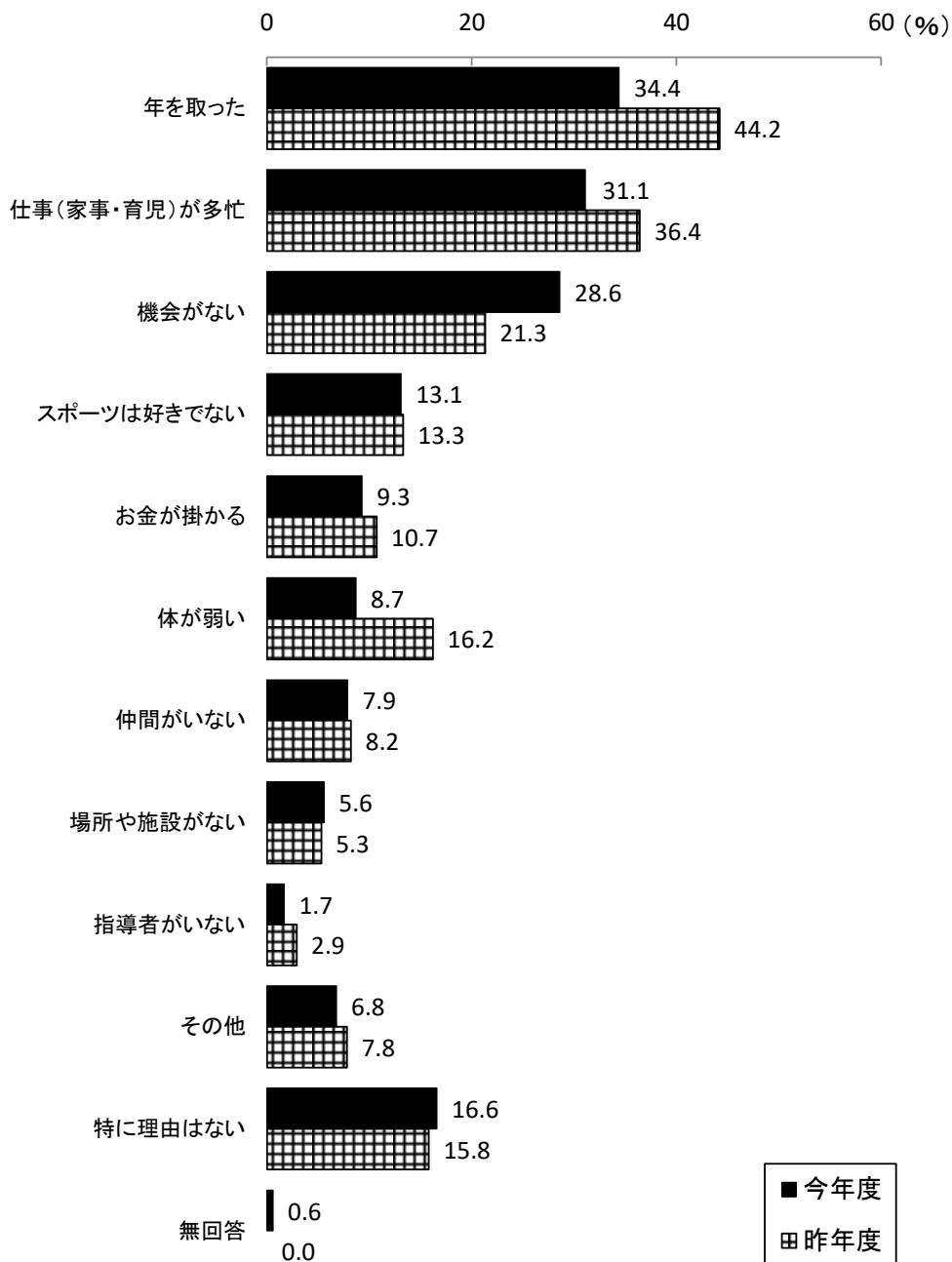


Q14-1で「行った」と回答した人に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり」が68.0%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等」が20.7%、「球技(屋外)」が15.1%、「アウトドアスポーツ」が15.0%の順となっている。

14-3. 運動・スポーツを行わなかった理由

【Q14-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=482)

Q14-3 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

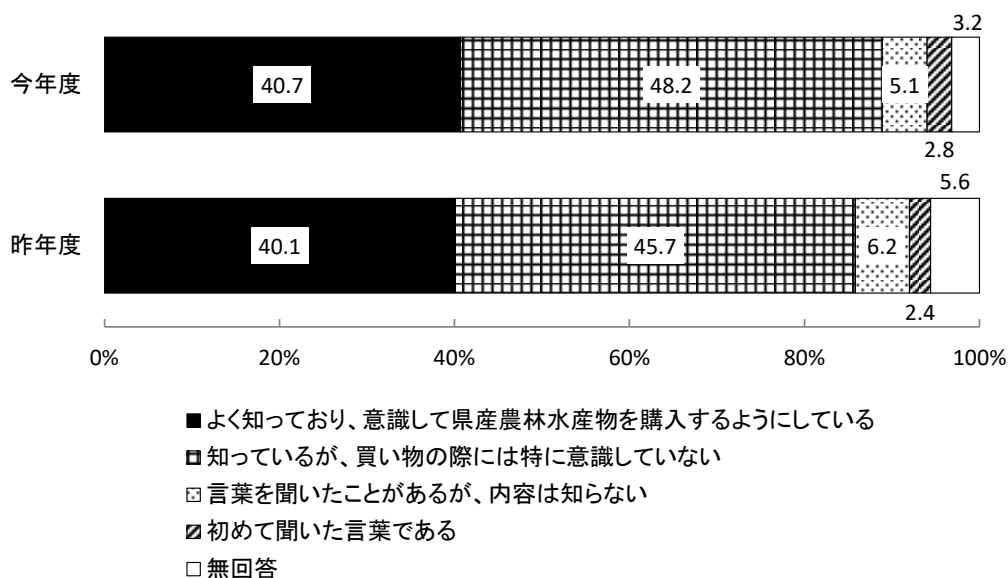


Q14-1で「行わなかった」と回答した人に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「年を取った」が34.4%で最も高く、次いで「仕事(家事・育児)が多忙」が31.1%、「機会がない」が28.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「年を取った」が9.8ポイント、「体が弱い」が7.5ポイント、「仕事(家事・育児)が多忙」が5.3ポイントとそれぞれ低下したが、「機会がない」が7.3ポイント上昇している。

15. 地産・地消の推進について

15-1. 「地産・地消」の認知状況

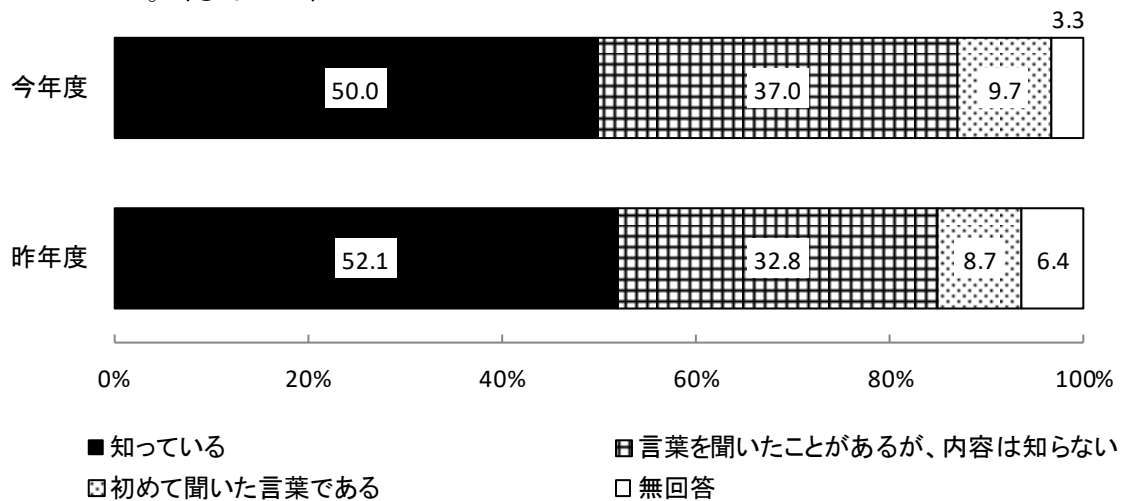
Q15-1 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。(〇は1つ)



「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が48.2%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が40.7%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が5.1%、「初めて聞いた言葉である」が2.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が2.5ポイント上昇し、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が1.1ポイント低下している。

15-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

Q15-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など約100商品が登録されています。あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)

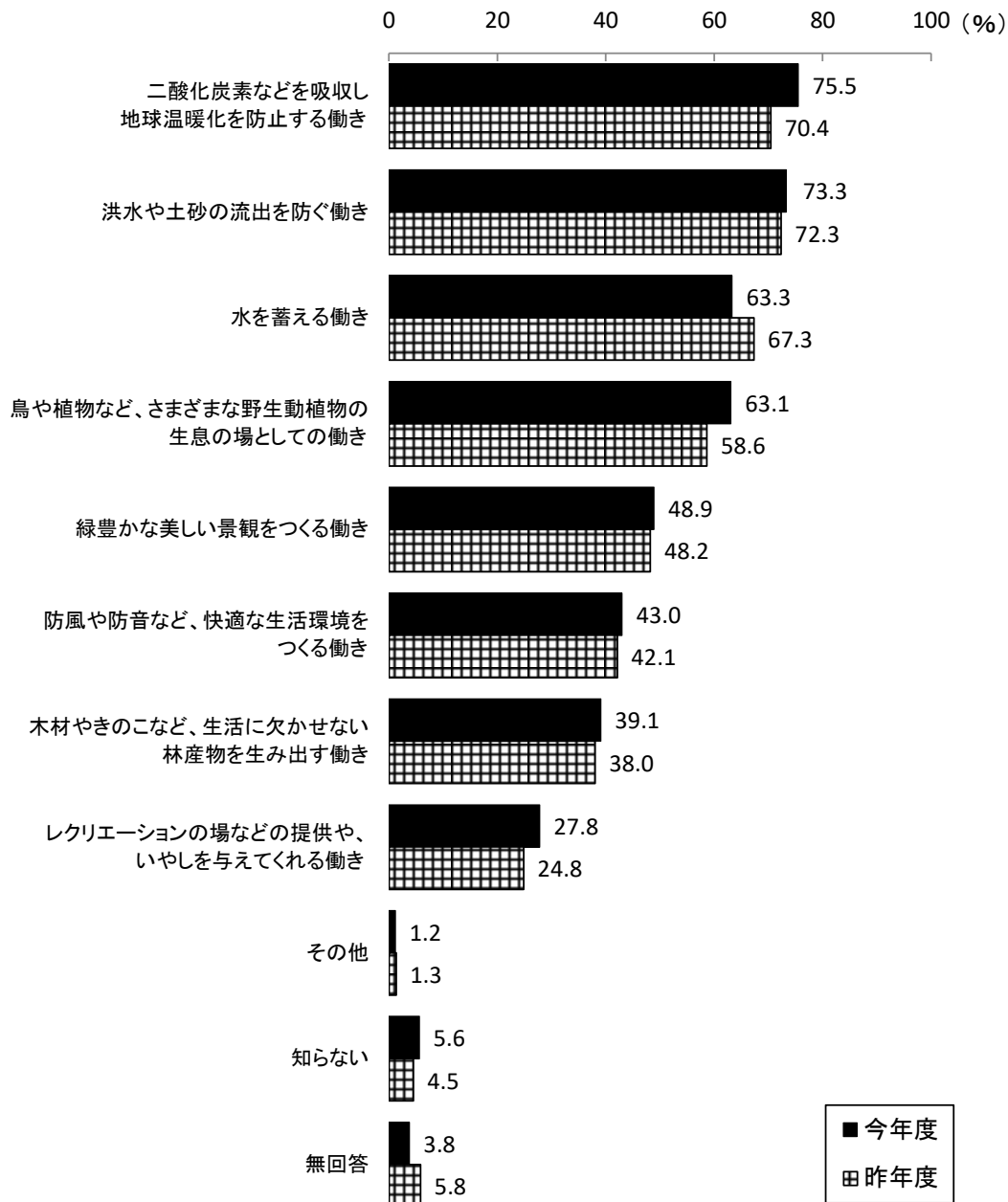


「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が50.0%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が37.0%、「初めて聞いた言葉である」が9.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が2.1ポイント低下し、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が4.2ポイント上昇している。

16. やまぐち森林づくり県民税について

16-1. 森林の持っている働き

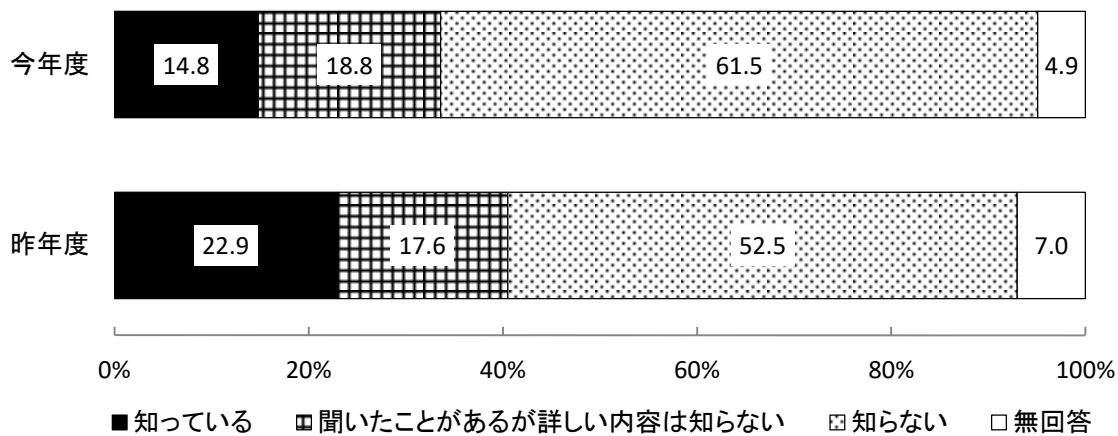
Q16-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「二酸化炭素などを吸収し地球温暖化を防止する働き」が75.5%で最も高く、次いで「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」が73.3%、「水を蓄える働き」が63.3%、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」が63.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「二酸化炭素などを吸収し地球温暖化を防止する働き」は5.1ポイント上昇し、「水を蓄える働き」は4.0ポイント低下している。

16-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q16-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)

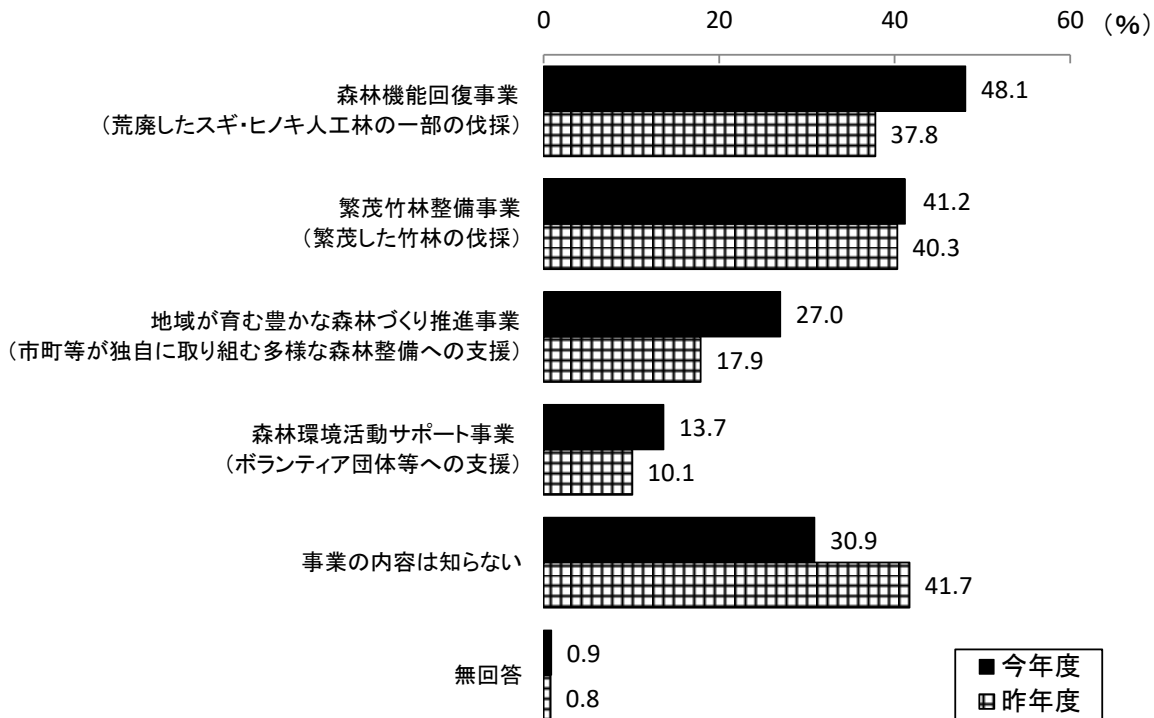


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知らない」が61.5%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が18.8%、「知っている」が14.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が8.1ポイント低下している。

16-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q16-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=233)

Q16-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

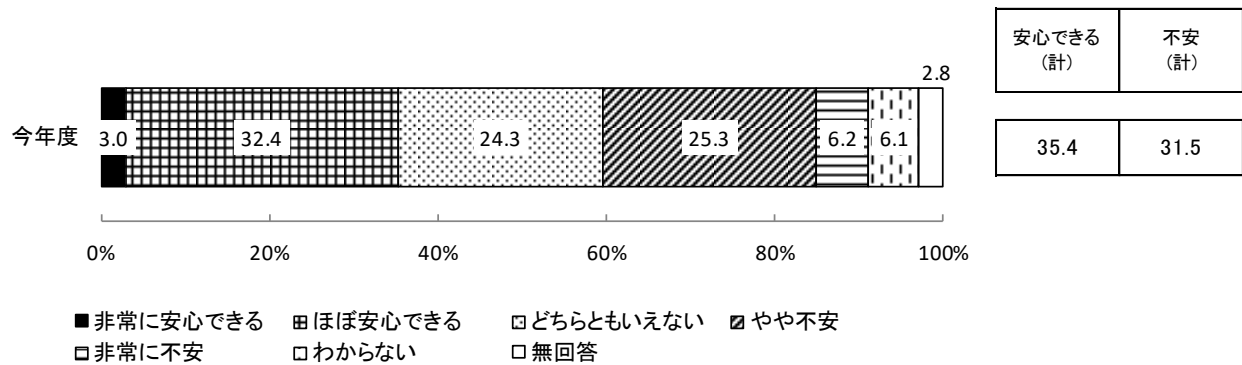


Q16-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が48.1%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が41.2%、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が27.0%、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」が13.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」は10.3ポイント上昇し、「事業の内容は知らない」は10.8ポイント低下している。

17. 日常よく利用する道路について

17-1. 道路網の安心度

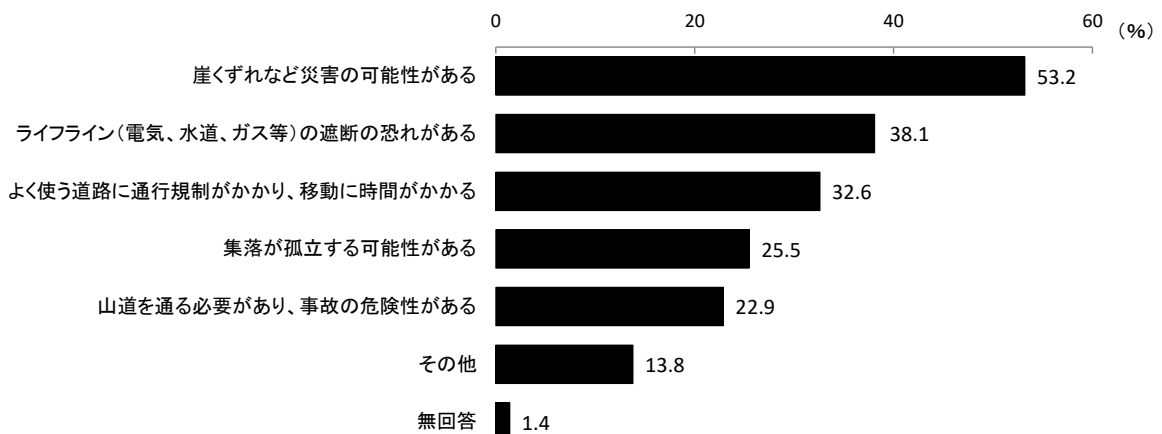
Q17-1 大雨や地震の際において、安心できる道路網であると思いますか。(○は1つ)



道路網の安心度について、「非常に安心できる」と「ほぼ安心できる」を合わせた『安心できる (計)』が 35.4%、「非常に不安」と「やや不安」を合わせた『不安 (計)』が 31.5%と、安心できる道路網であると思う人の割合がわずかに高くなっている。

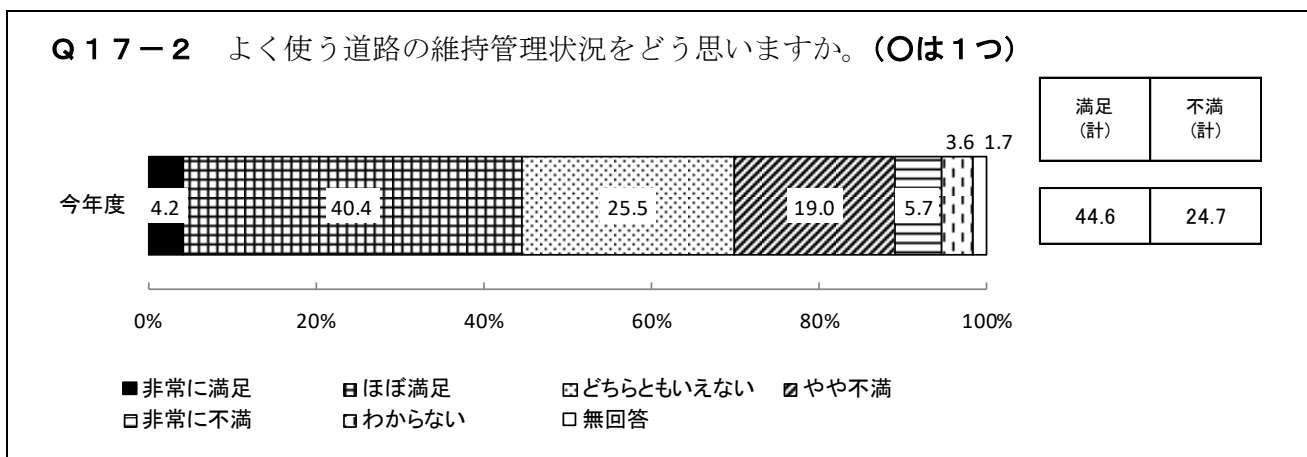
【Q17-1で「4. やや不安」、「5. 非常に不安」と回答した方に】 (n=494)

不安と感じる要因は何ですか。(○はいくつでも)



Q17-1で「4. やや不安」、「5. 非常に不安」と回答された方に、不安と感じる要因について質問すると、「崖くずれなど災害の可能性がある」が 53.2%と最も高く、次いで「ライフライン(電気、水道、ガス等)の遮断の恐れがある」が 38.1%、「よく使う道路に通行規制がかかり、移動に時間がかかる」が 32.6%、「集落が孤立する可能性がある」が 25.5%、「山道を通る必要があり、事故の危険性がある」が 22.9%の順となっている。

17-2. よく使う道路の維持管理状況

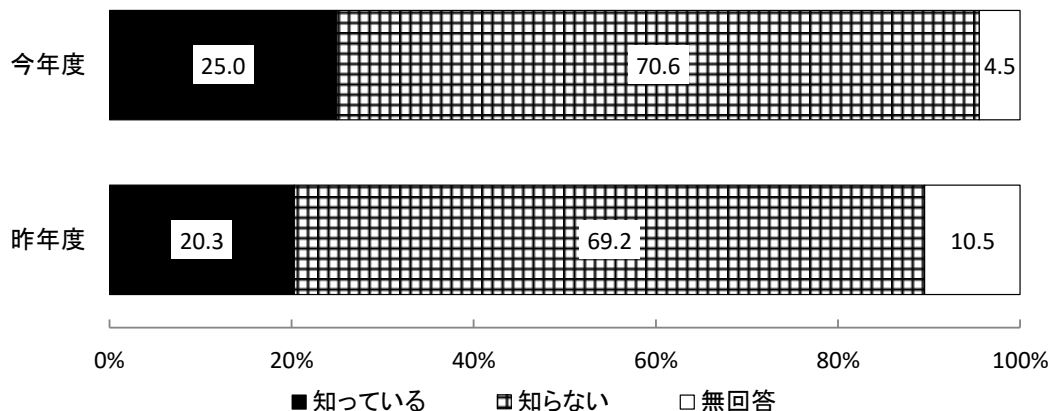


よく使う道路の維持管理状況について、「非常に満足」と「ほぼ満足」を合わせた『満足(計)』が44.6%、「非常に不満」と「やや不満」を合わせた『不満(計)』が24.7%と、満足している人の割合が高くなっている。

18. コミュニティ・スクールについて

18-1. コミュニティ・スクールの認知状況

Q18-1 山口県では、すべての公立小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みが導入されており、保護者や地域住民の声を生かした「地域とともにある学校づくり」を推進しています。あなたは、校区の小中学校が「コミュニティ・スクール」であることをご存じですか。（○は1つ）

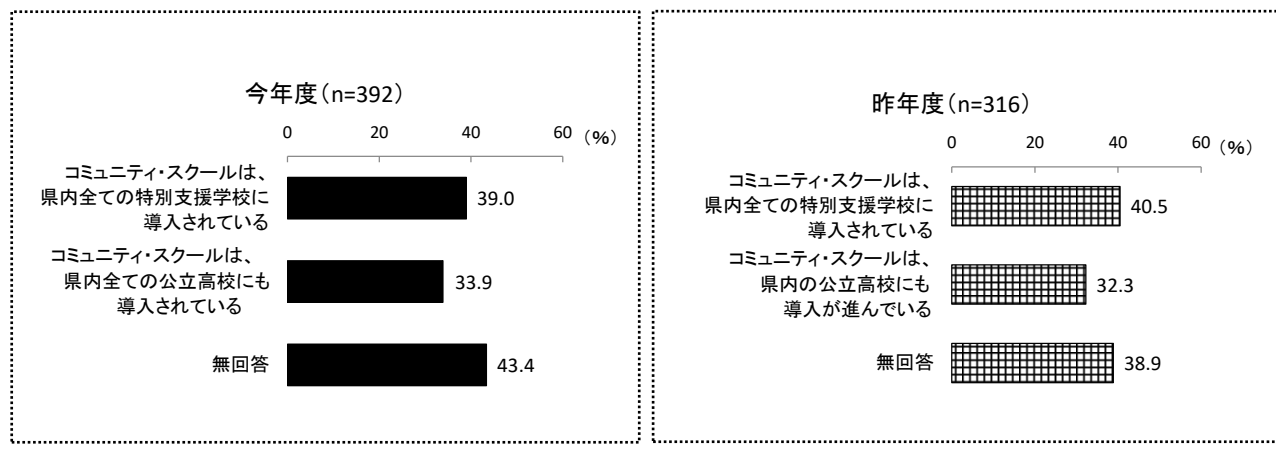


コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」が25.0%となっており、昨年度と比較すると、4.7ポイント上昇している。

18-2. コミュニティ・スクールについて知っていること

【Q18-1で「1. 知っている」と回答した方に】

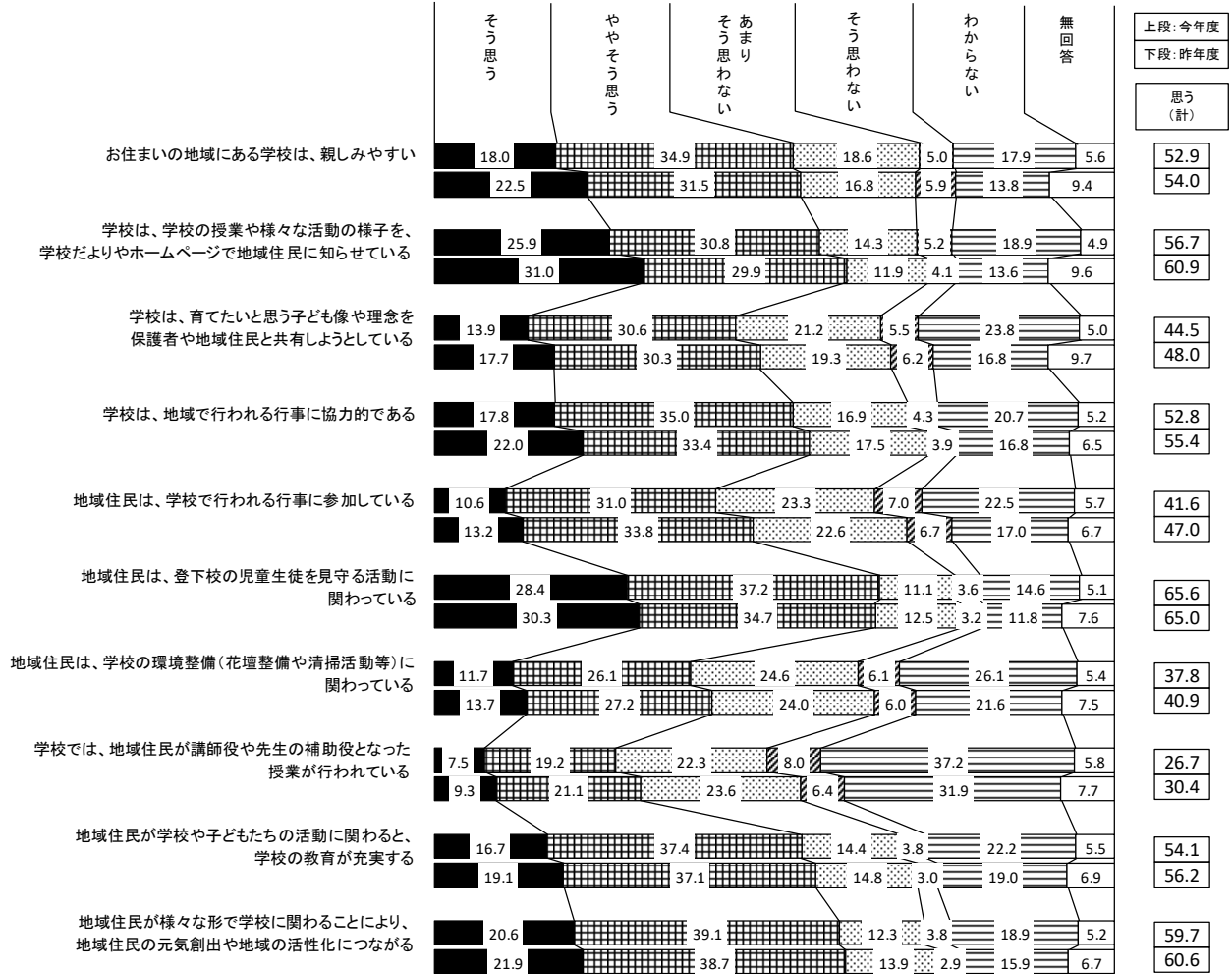
Q18-2 「コミュニティ・スクール」について以下のことをご存じでしたら○をつけてください。（複数回答可）



Q18-1で、「コミュニティ・スクールについて知っている」と回答した人のうち、「県内全ての特別支援学校に導入されていることを知っている」と答えた人は、39.0%であった。

18-3. 地域と学校との関係

Q18-3 あなたがお住まいの地域と地域にある学校（小学校、中学校いずれについてでも可）との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。（〇はそれぞれ1つ）



地域と学校との関係について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に関わっている」が65.6%と最も高く、次いで「地域住民が様々な形で学校に関わることにより、地域住民の元気創出や地域の活性化につながる」が59.7%、「学校は、学校の授業や様々な活動の様子を、学校だよりやホームページで地域住民に知らせている」が56.7%の順となっている。